豊岡市地域計画

目　次

1. 実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ2

2. 事務の実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ4

3. 計画区域・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ5

4. 基本的な方針
4-1. 現状分析
4-1-1. 主要な文化資源 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ 6
4-1-2. 観光客の動向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ 10
4-1-3. 他の地域との比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ 15
4-2. 課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ 16
4-3. 文化観光拠点施設を中核とした文化観光の総合的かつ一体的な推進のため取組を
強化すべき事項及び基本的な方向性 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ 16
4-4. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出 ・・・・・・・・・Ｐ 17

5. 目標 ・・・Ｐ 18

6. 目標の達成状況の評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ 26

7. 中核とする文化観光拠点施設 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ 27

8. 地域文化観光推進事業
8-1. 事業の内容
8-1-1. 文化資源の総合的な魅力の増進に関する事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ 31
8-1-2. 地域内を移動する国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の
地域における文化観光に関する利便の増進に関する事業 ・・・・・・・・・・・・・・Ｐ 36
8-1-3. 地域における文化観光拠点施設その他の文化資源保存活用施設と飲食店、
販売施設、宿泊施設その他の国内外からの観光旅客の利便に供する施設との
連携の促進に関する事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ 39
8-1-4. 国内外における地域の宣伝に関する事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ 41
8-1-5. 1.～4.の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業 ・・・・・・・・・・・・・Ｐ 42
8-2. 特別の措置に関する事項
8-2-1. 必要とする特例措置の内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ 44
8-2-2. オブジェ等の設置に関する取組等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ 44
8-3. 必要な資金の額及び調達方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ 46

9. 計画期間 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ 52

１．実施体制

<table>
<tr><td>協議会</td><td>名称</td><td colspan="3">豊岡市文化観光推進協議会</td></tr>
<tr><td rowspan="2">申請者①
協議会の構成員である市町村又は都道府県</td><td>名称</td><td>豊岡市</td><td rowspan="2">所在地</td><td rowspan="2">兵庫県豊岡市中央町２番４号</td></tr>
<tr><td>代表者</td><td>関貫　久仁郎</td></tr>
<tr><td rowspan="3">申請者②
中核とする文化観光拠点施設の設置者</td><td>施設の名称</td><td>城崎国際アートセンター</td><td>施設所在地</td><td>兵庫県豊岡市城崎町湯島 1062</td></tr>
<tr><td>設置者の名称</td><td>豊岡市</td><td rowspan="2">設置者所在地</td><td rowspan="2">兵庫県豊岡市中央町２番４号</td></tr>
<tr><td>代表者</td><td>関貫　久仁郎</td></tr>
<tr><td rowspan="2">申請者③
文化観光推進事業者</td><td>名称</td><td>豊岡演劇祭実行委員会</td><td rowspan="2">所在地</td><td rowspan="2">兵庫県豊岡市中央町２番４号</td></tr>
<tr><td>代表者</td><td>高宮　浩之</td></tr>
<tr><td rowspan="2">申請者④
文化観光推進事業者</td><td>名称</td><td>豊岡ツーリズム協議会</td><td rowspan="2">所在地</td><td rowspan="2">兵庫県豊岡市中央町２番４号</td></tr>
<tr><td>代表者</td><td>高宮　浩之</td></tr>
<tr><td rowspan="2">申請者⑤
文化観光推進事業者</td><td>名称</td><td>一般社団法人豊岡観光イノベーション（地域連携ＤＭＯ）</td><td rowspan="2">所在地</td><td rowspan="2">兵庫県豊岡市大磯町１番 79 号　但馬地域地場産業振興センター５階</td></tr>
<tr><td>代表者</td><td>関貫　久仁郎</td></tr>
<tr><td rowspan="2">申請者⑥
文化観光推進事業者</td><td>名称</td><td>全但バス株式会社</td><td rowspan="2">所在地</td><td rowspan="2">兵庫県養父市八鹿町八鹿 113 番地１</td></tr>
<tr><td>代表者</td><td>村上　宣人</td></tr>
</table>

申請者⑦ 文化観光推進 事業者	名称	一般社団法人 POST	所在地	兵庫県豊岡市元町２番８号 ennas２階
	代表者	吉田　雄一郎		
申請者⑧ 文化観光推進 事業者	名称	西日本旅客鉄道株式会社 近畿統括本部兵庫支社	所在地	兵庫県神戸市中央区加納町４丁目４番１７号ニッセイ三宮ビル
	代表者	國弘　正治		
申請者⑨ 文化観光推進 事業者	名称	一般社団法人豊岡アート アクション	所在地	兵庫県豊岡市中央町１８番１号
	代表者	中貝　宗治		
申請者⑩ 文化観光推進 事業者	名称	豊岡劇場	所在地	兵庫県豊岡市元町１０番１８号
	代表者	田中　亜衣子		
申請者⑪ 文化観光推進 事業者	名称	特定非営利活動法人 本と温泉	所在地	兵庫県豊岡市城崎町湯島７８
	代表者	冨田　健太郎		

２．事務の実施体制

＜本協議会がめざす姿＞

豊岡市が目指すまちの将来像である「小さな世界都市-Local & Global City-」の実現に向けたエンジンの１つである“深さをもった演劇のまちづくり”を推進し、豊岡の突き抜けた価値を創造・再構築する。

１．豊岡市の実施体制

豊岡市環境経済部大交流課において、豊岡市の文化観光推進事業の統括を行う。また、大交流課には文化観光推進の実施主体となる協議会の事務局を置く。

２．地域計画作成の体制

本計画を円滑かつ確実に実施するため、豊岡市が主体となり、統括的な事業の把握と検証等を実施する。その統括的な役割を大交流課が担い、文化振興課や各文化施設等と連携して事業を推進する。また、豊岡市における観光 DMO である、一般社団法人豊岡観光イノベーションや、旧市町毎に組織されている観光協会の連絡調整機関である豊岡ツーリズム協議会と連携し、文化観光の推進を図る。

さらに、2019 年から実施している豊岡演劇祭は市内の文化資源と演劇を掛け合わせた新しいツーリズムの可能性を予見するものであり、演劇祭を地域活性化のプラットフォームとして様々な実証実験を行うこととしており、文化観光推進の新しいエンジンとなっている。

３．各申請者の役割

【豊岡市】

文化観光推進事業の統括、各事業推進を行う。

【城崎国際アートセンター】

主要な文化観光拠点として、“深さをもった演劇のまちづくり”を伝えていく。

【豊岡演劇祭実行委員会】

５年でアジア No.1、10 年で世界有数の演劇祭を目指す豊岡演劇祭に係る事業を推進していく。

【豊岡ツーリズム協議会】

各地域の観光協会と連携し、周遊観光を促進する。

【一般社団法人豊岡観光イノベーション】

観光 DMO として各地の強みを活かした文化観光に関する旅行商品の造成やマーケティングを実施していく。

【全但バス株式会社】

市内の交通を支える路線バス会社として、周遊観光に必須となる二次交通の充実を図る。

【一般社団法人 POST】

城崎国際アートセンターの事業運営を担いつつ、地域との連携や情報発信を行っていく。

【西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部兵庫支社】

地域の交通を支える鉄道会社、市内の交通事業者と連携して周遊観光の促進を図る。

【一般社団法人豊岡アートアクション】

民の側面から「深さをもった演劇のまちづくり」を通じて、まち全体の共感力を高め、文化観光推進を支援していく。

【豊岡劇場】

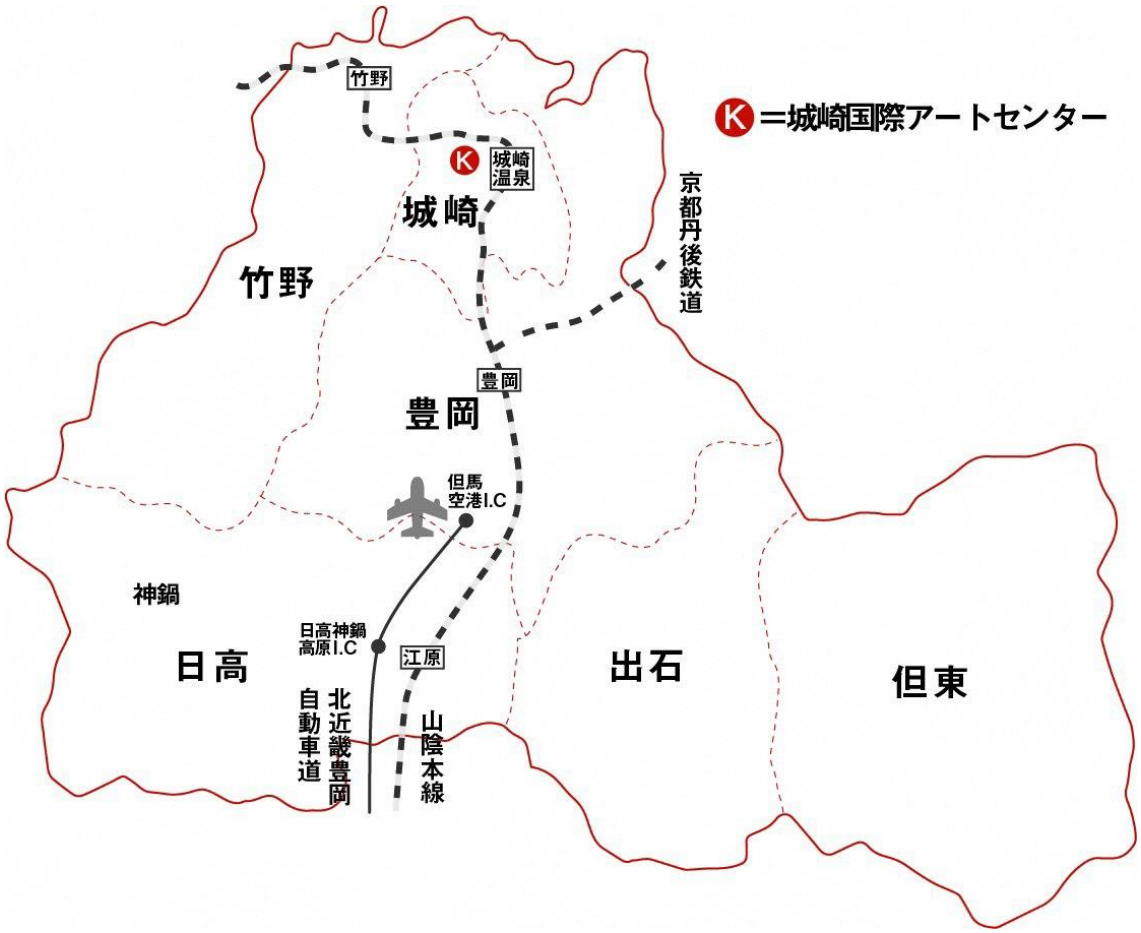
兵庫県北部に唯一ある映画館。地域と連携して文化芸術と観光をつなげて、まちの魅力が高まる活

動を行う。

【特定非営利活動法人　本と温泉】

地域に根差したコンテンツ造成を通じて、地域の活性化や地域住民への文化振興を行っていく。

３．計画区域



4．基本的な方針

4-1. 現状分析

4-1-1. 主要な文化資源

◆深さをもった演劇のまちづくり

豊岡市が進めている“深さをもった演劇のまちづくり”では、「演劇やダンスなど舞台芸術」を文化資源の中心に据えている。

豊岡市が目指すまちの将来像である「小さな世界都市 -Local & Global City-」の実現に向け、豊岡の突き抜けた価値を創りあげるためには“深さをもった演劇のまちづくり”が必要不可欠である。豊岡には近畿最古の芝居小屋「出石永楽館」やアーティスト・イン・レジデンス施設の「城崎国際アートセンター」、劇作家・平田オリザ氏が主宰する劇団「青年団」や、その拠点である「江原河畔劇場」など、演劇に関連する強力な素材があるが、個々の取組みに留まっており、有機的な連携ができていない。

演劇に関する素材をさらに磨き、つなげるとともに、単に演劇が盛んなまちではなく、社会や生活の様々な場面に演劇や演劇的なものの考え方などが染み込み、人々のライフスタイルにまで影響を与えることにより、新たな地域活力が創出されなければならない。

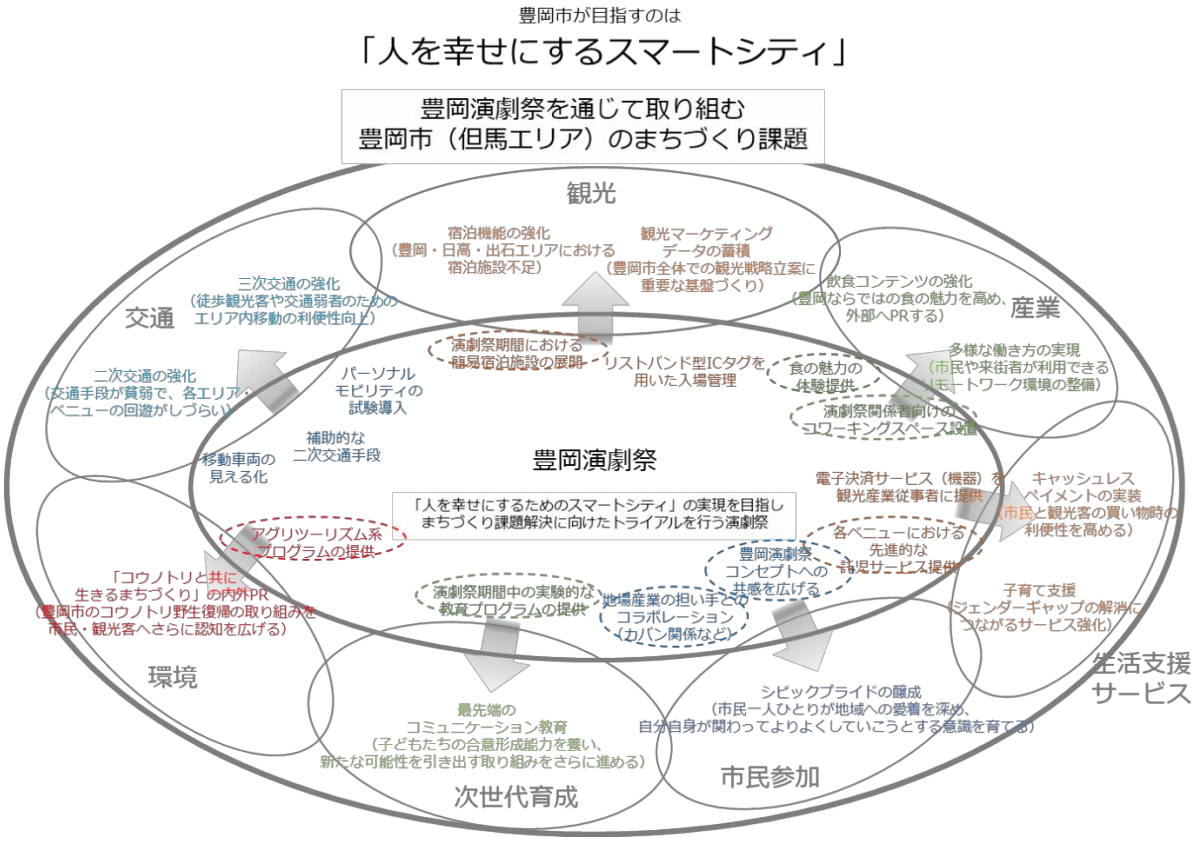
観光的な観点でいうと、まずコミュニケーションの洗練が挙げられる。ワークショップ等を通じて観光に携わる人を中心に相手の立場・ニーズに即した対応ができる人材を育成していくとともに、地域の風土・文化資源の解説説明の磨き上げを行う。例えば、広大な市内を案内する場合には、運転手が専属のガイドとなり、より付加価値の高いサービス提供を目指すことも可能であろう。

また、演劇的手法をまちづくり・観光地演出と考えると、何に光を当て、どこに注目させ、どう伝えるかというコミュニケーションデザインの点でも活用は可能となっていく。豊岡市の行うまちづくりそのものが観光資源（コウノトリの野生復帰及び深さをもった演劇のまちづくり）となりうる中で、まちの文化価値を高めて、地域住民のシビックプライドを高めるとともに、観光への参画を促していく。

豊岡市では、これ以外にも演劇による非認知能力の向上への取り組みや、演劇的手法を用いたコミュニケーション教育、さらに、演劇的要素を取り入れた運動遊びによる発達障害児の発達支援を実施している。非認知能力の向上には、演劇やダンス等のアウトプット型の活動（自己表現）を幼児期・小学校低学年で行うことは有効とされている。また、演劇的手法を用いたコミュニケーション教育も５年以上の実績があり、グローバル・コミュニケーションスキルの獲得を見据え、性別や年代を超えた対等な関係の中で自分を主張し、他者を理解できる基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指している。これらの先進的な取り組みは、内外の注目を集めており、地域内の人材育成にとどまらず、研修ツアー等への活用も検討している。

“深さをもった演劇のまちづくり”のリーディングプロジェクトである豊岡演劇祭では城崎国際アートセンター、出石永楽館、江原河畔劇場等を主会場とした豊岡市全域で演劇公演を行いながら、まちづくりと連動した演劇祭として、地域の自立的なビジネスの活性化や、新しいサービスの創出など、演劇祭を契機に豊岡市のまちづくりを推進している。

【イメージ図】



その中での観光への取組みとして、演劇ツーリズムがあげられ、その方向性は豊岡市が策定した、豊岡市大交流ビジョンに深く依拠している。

◆豊岡市大交流ビジョン

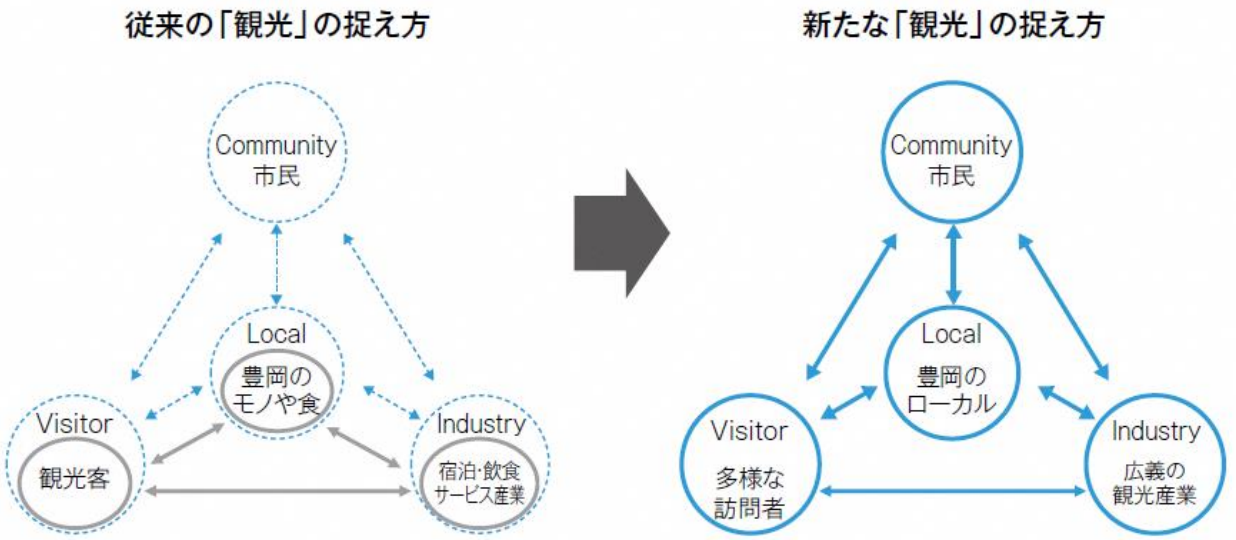
豊岡市では、「小さな世界都市 -Local & Global City-」を実現するため、基幹産業である観光産業のあるべき姿や今後の方向性を示すとともに、さらに取組みを加速させるため 2018 年度に豊岡市大交流ビジョンを策定した。

その中で、豊岡市は、「観光」を「交流」と捉え直した。

かつての観光は、物見遊山的で、観光客と宿泊、飲食サービス事業者など一部の関係者だけのものとして狭く捉えられており、市民自身が自分の住んでいる地域の観光を楽しみ、市民の日常やその地の歴史、文化、産業が魅力的な観光資源になりうること、観光振興が市民生活の豊かさの向上に繋がることなど、市民という視点が弱かったと考えられる。

このため豊岡市大交流ビジョンでは、観光に関わる主体を豊岡市民、豊岡市を訪れる多様な訪問者、豊岡市の幅広い産業とし、観光の核となるものを豊岡の「モノ」や「食」の消費から、「豊岡のローカル」への憧れや共感へと大きく捉え直すこととした。

市民 (Community) と多様な訪問者 (Visitor)、広義の観光産業 (Industry) が「豊岡のローカル (Local)」を核として相互に作用することで、様々な交流、ポジティブな反応が生み出される。こうした相互作用により、地域に新しい価値が加わるサイクルが継続し、拡大されることで、地域全体に“大交流”を通じたイノベーションが起きている状態を目指す。このイノベーションの推進力にも”演劇的発想”は寄与していくこととなる。



【別紙　豊岡市大交流ビジョン】

”深さをもった演劇のまちづくり”と”豊岡市大交流ビジョン”が相互に作用し合い、豊岡市が考える演劇ツーリズムを実現していく。豊岡演劇祭はそのフラグシップとして位置づけられている。

◆豊岡演劇祭

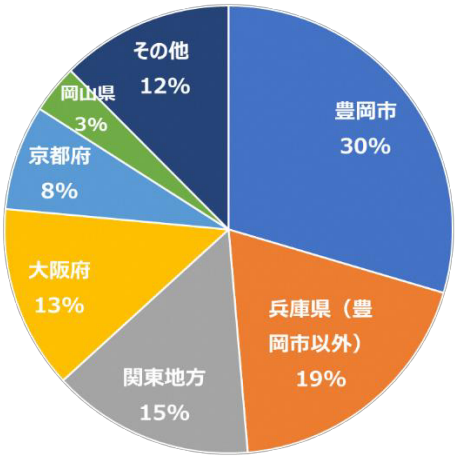
豊岡演劇祭2020
Toyooka Theater Festival

“深さをもった演劇のまちづくり”のリーディングプロジェクトとして、国際演劇祭を開催している。日本に例を見ないフリンジ型演劇祭（招待公演以外に自主参加の公演も認める見本市機能を持つ演劇祭）とし、５年でアジア No. １、10 年で世界有数の演劇祭を目指す。

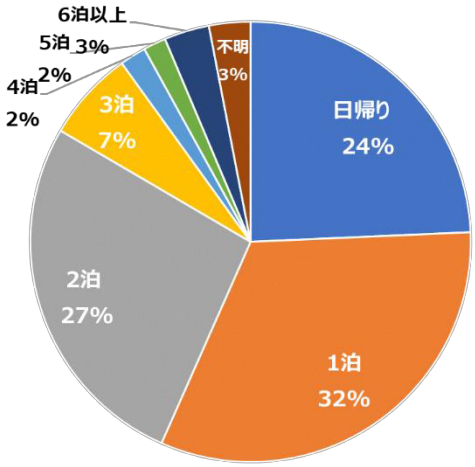
昨年開催した「豊岡演劇祭 2020」の来場者アンケートによると、全来場者の約 50%が県外から、15%が関東地方から来訪している（図１）。また、市外からの来場者の 70%以上が宿泊されている（図２）ことや、宿泊者の平均宿泊日数が 2.17 泊と一般の宿泊観光客（国内 1.42 泊、インバウンド 1.38 泊）よりも多いことから、「演劇ツーリズム」の可能性を確信している。また、初めて豊岡に訪れた方は 41%と、市外の方を呼び込むのに効果があることが分かった。今回はコロナ禍での開催で外国人の来場はごく少数であったが、2021 年以降は外国人来場者の割合が増えるような演目上演や受入体制整備を行っていく。演

劇祭全体の満足度についても「とても満足」「満足」と70%の方が感じていただいたことからも、文化観光の体現として大きな成功を収めたと考えている。また、演劇祭をプラットフォームとした企業によるまちづくりに関する実証実験も積極的に導入し、演劇祭期間中だけでなく、日常生活の様々な課題解決に結びつける取り組みを行っている。

【図１】豊岡演劇祭来訪者居住地内訳(n=514)



【図２】豊岡演劇祭来訪者宿泊日数内訳(n=362)



出典：豊岡演劇祭2020実績報告

演劇を通して市民が多様性を受け入れ、コミュニケーション力が向上し、人を惹きつける価値のあるまちになることで、まちの文化的価値を高める。まちの文化的価値が高まってくることにより、市外の人々を惹きつけ、市民の誇りにもつながってくる。市民が誇りをもつことでまちに活気が生まれ、ますます人を惹きつけ、観光したいまちへと繋がっていく。“深さをもった演劇のまちづくり”を行うことは、演劇という従来の文化資源としての力だけでなく、多様性をもったまちの受入体制にもつながっており、文化観光の大きな推進力となっている。

【別紙　豊岡演劇祭2020実績報告書】

“深さをもった演劇のまちづくり”の起源であり、また、現在も中核となる拠点施設として、城崎国際アートセンターがある。

◆城崎国際アートセンター(KIAC)

舞台芸術のための滞在型の創作施設で、旧・城崎大会議館をリニューアルして2014年にオープンしたこの施設は、ホールに６つのスタジオ、最大22名が宿泊可能なレジデンスやキッチンなどで構成され、アーティストが城崎のまちに暮らすように滞在し、創作に集中することのできる施設として、開館以来高い評価を受けている。

年間を通して実施しているアーティスト・イン・レジデンスプログラムでは、年に１回の公募によってアーティストを選定し、その滞在制作を支援している。アーティストは最短３日間から最長３か月の間、KIACに滞在し、その間ホール、スタジオ等を24時間無料で使用することが出来る。優れた芸術作品を世界中に送り出すことと、試演会やワークショップなどの交流プログラムを通して地域の方々が多様な芸術活動に触れられる環境を創出することをミッションといる。

KIACがある城崎温泉は外湯めぐりが有名な温泉地であり、滞在アーティストも滞在中は外湯めぐりを

楽しんでいる。外湯では、アーティスト、観光客、市民の間でコミュニケーションが生まれ、ここにしかない出会いを創造しており、多様性に満ちた文化度の高いまちが形成されてきた。今まで気づかなかった文化(演劇、アート)のすばらしい力をまちづくりへ取り入れようと考えた“深さをもった演劇のまちづくり”の起源の地として今回の主要な文化拠点となっている。

今後は、主要な文化拠点として、“深さをもった演劇のまちづくり”の取組みをより多くの人へ届けるための施設整備を行っていく。

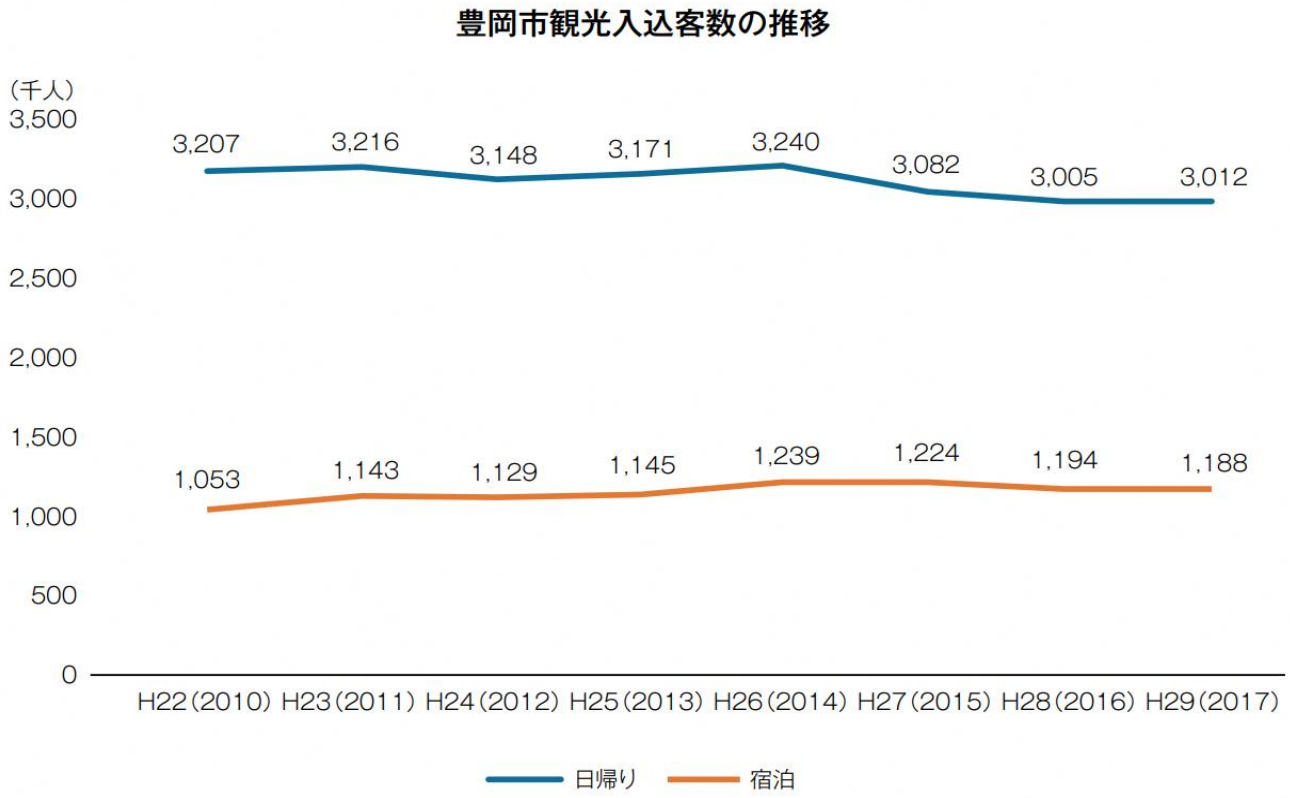
追記として、“深さをもった演劇のまちづくり”の今後の推進力となりうるのが、2021 年 4 月に開学予定の芸術文化観光専門職大学である。しかしながら、現時点では開学していない状況であり、具体的にどのような連携が可能か現在協議している段階であるため、今回の申請者には含んでいないが、連携が取れ次第申請者への追加申請の手続きを行う予定である。

4-1-2. 観光客の動向

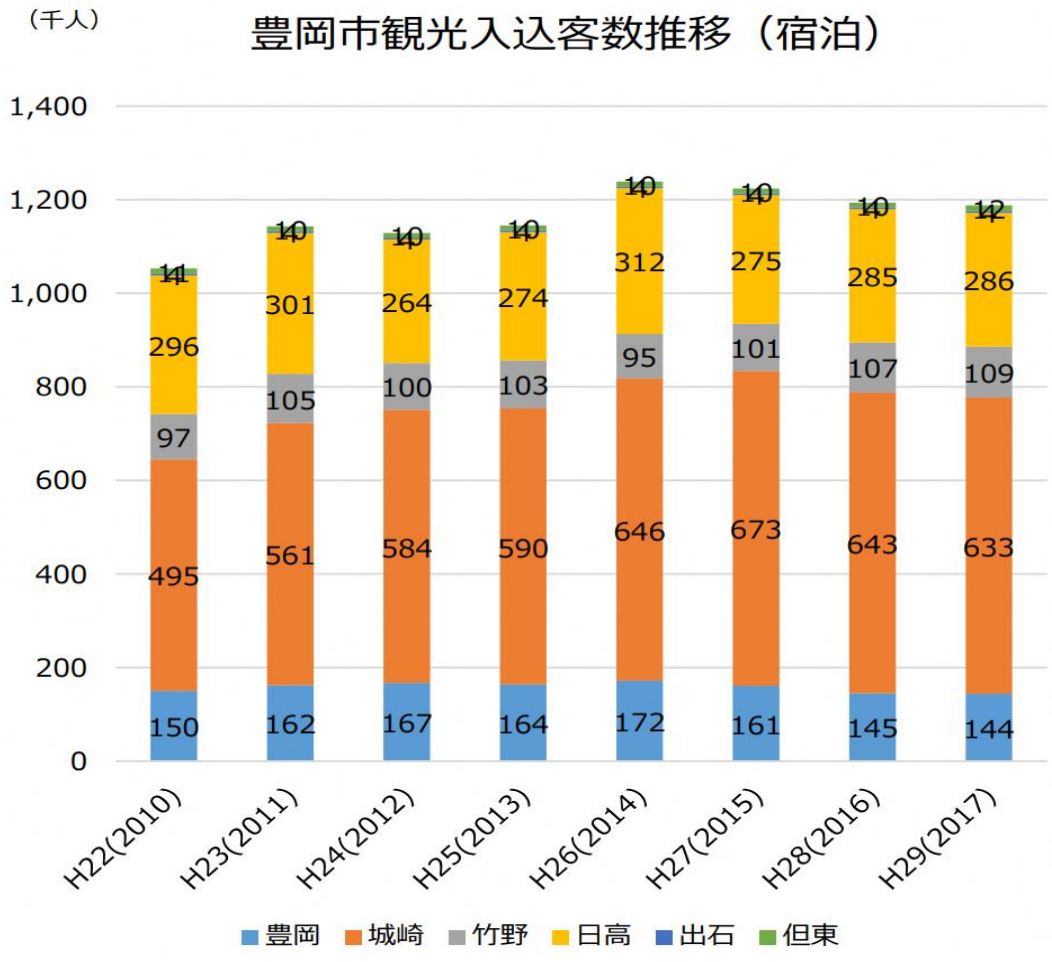
①国内旅行市場の状況

豊岡市の観光産業の多くは、日本人による国内旅行に支えられている。日本全体は長期低迷により横ばい傾向である。一方、豊岡市の観光入込客数は、日帰り客が微減傾向、宿泊客は微増傾向にある。(図３)。2017 年度の宿泊者数は約 120 万人で、地域別にみると、50%以上の方が城崎温泉に宿泊されている(図４)。市内でもっとも宿泊客が多い城崎温泉宿泊客数の月別推移をみると、繁忙期と閑散期の差が大きいことが特徴としてみられる(図５)。４～７月は閑散期、８月は夏休みがあり繁忙期、９、10 月は閑散期、11 月～３月はカニ漁解禁による繁忙期と、観光需要の平準化が地域経済の安定(特に雇用面)に向けた大きな課題のひとつである。

【図３】


豊岡市観光入込客数の推移
（千人）
3,500
3,000
2,500
2,000
1,500
1,000
500
0
3,207
3,216
3,148
3,171
3,240
3,082
3,005
3,012
1,053
1,143
1,129
1,145
1,239
1,224
1,194
1,188
H22（2010）
H23（2011）
H24（2012）
H25（2013）
H26（2014）
H27（2015）
H28（2016）
H29（2017）
日帰り
宿泊

【図４】


（千人）
豊岡市観光入込客数推移（宿泊）
1,400
1,200
1,000
800
600
400
200
0
H22(2010)
H23(2011)
H24(2012)
H25(2013)
H26(2014)
H27(2015)
H28(2016)
H29(2017)
豊岡
城崎
竹野
日高
出石
但東

【図５】

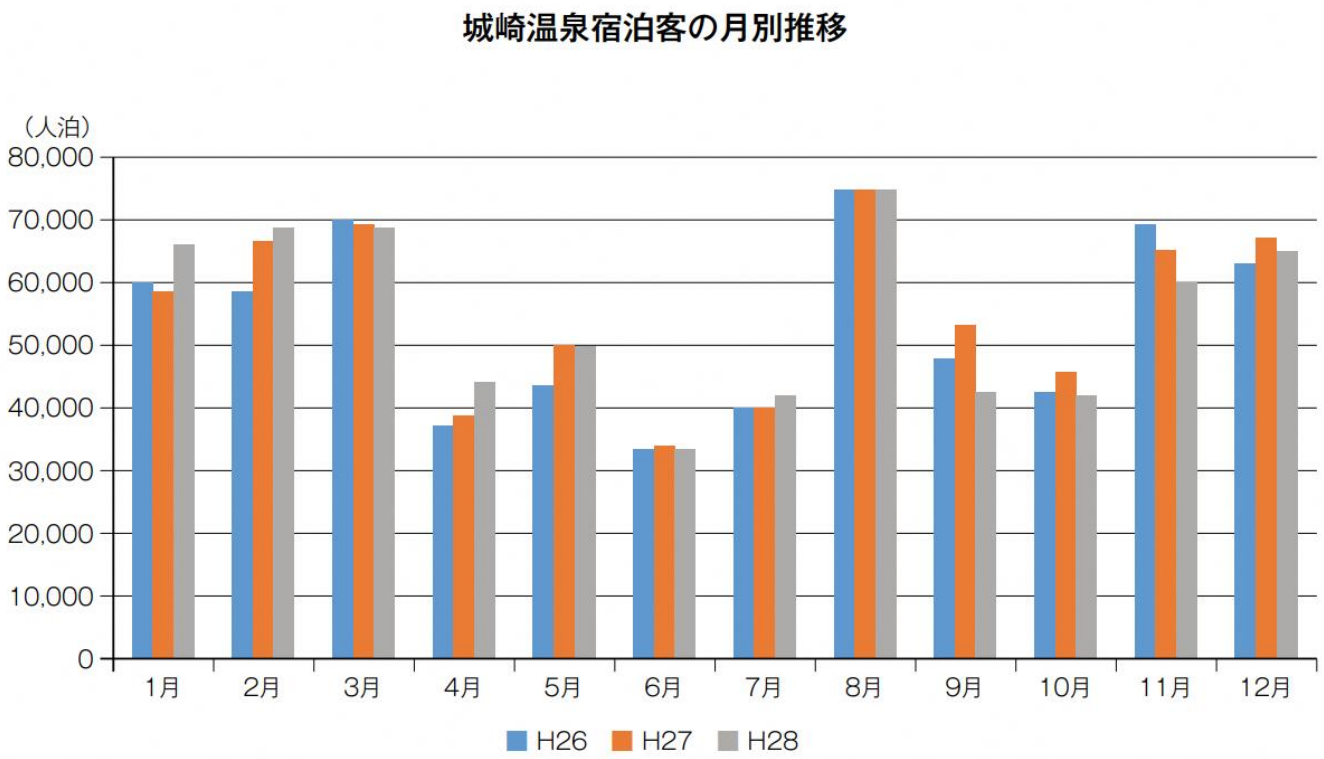
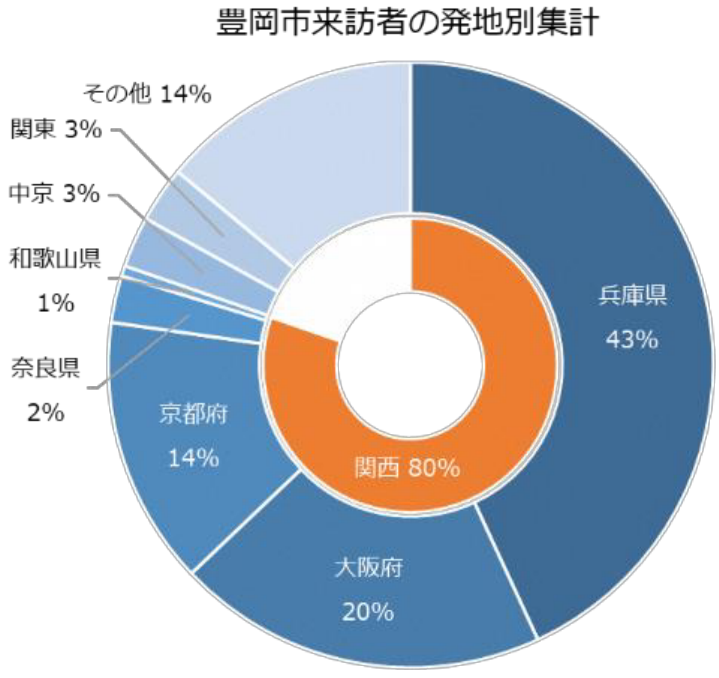


図３～図５出典：豊岡市大交流ビジョン

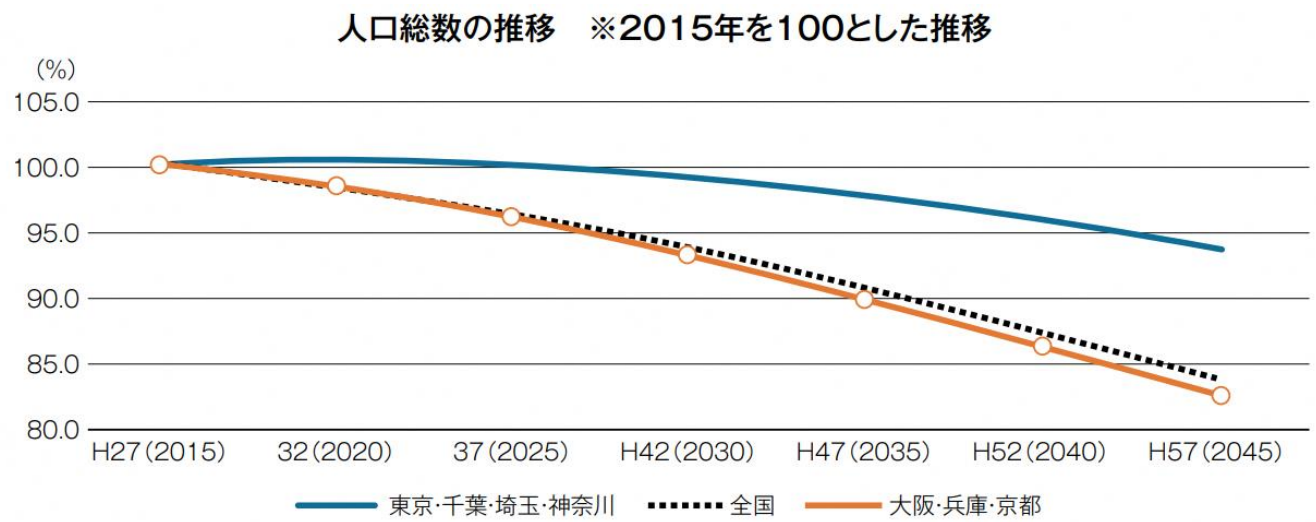
豊岡市への来訪者は、関西圏からの来訪が約８割を占め、そのうち、京都府、大阪府、兵庫県で約96%を占めている。（図６）

関西圏からの来訪者の依存度が高いことは課題で、関西圏（京都府、大阪府、兵庫県）の人口総数の推移をみると、首都圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）と比べ大きく減少する見込みである。（図７）そのため、関西圏からの来訪者に依存し続けると、豊岡市の観光産業に影響を及ぼすことから、首都圏そして、インバウンドへの注力が今後の課題解決へのターゲットと考えている。

【図６】



【図７】



②外国人旅行市場の状況

豊岡市の訪日外国人旅行者の延べ宿泊者数は、インバウンド誘客施策が功を奏し、2012 年以降、急速に伸びている(図８)。全国と比べると欧米豪の占める割合が高いことが特徴(図９)で、アジアの比率が低く、近年、伸びが鈍化傾向にある。

豊岡市を訪れた外国人旅行者へのアンケート結果から、豊岡市に宿泊する外国人旅行者の約８割が城崎温泉に宿泊しており、平均宿泊日数は1.3 泊と非常に短いことが明らかとなっている。

【図８】

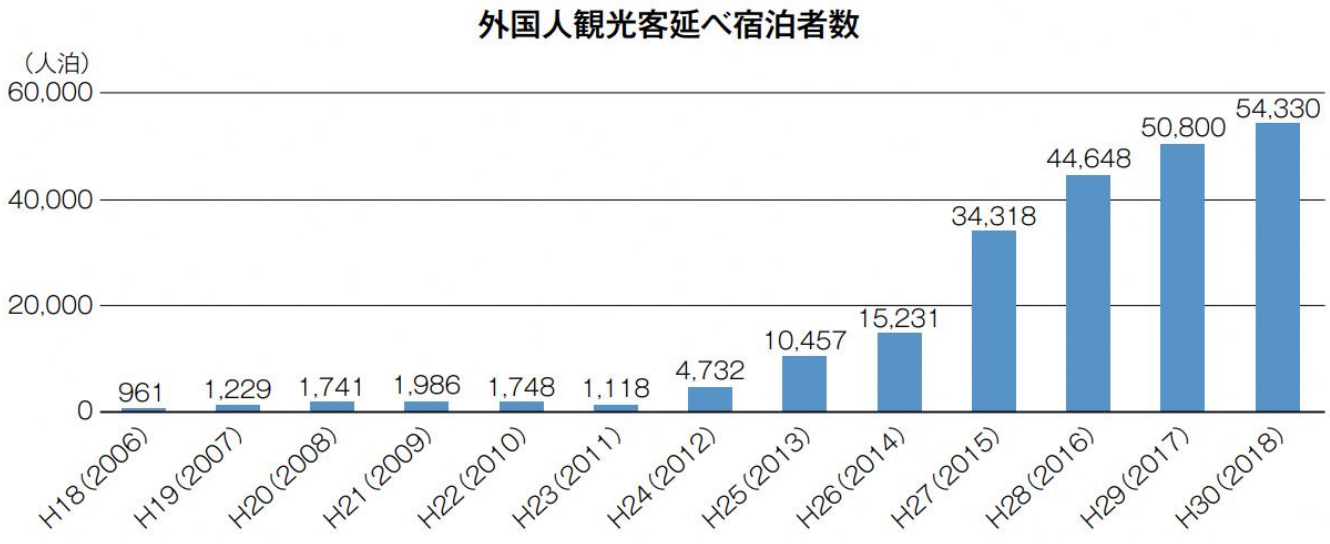
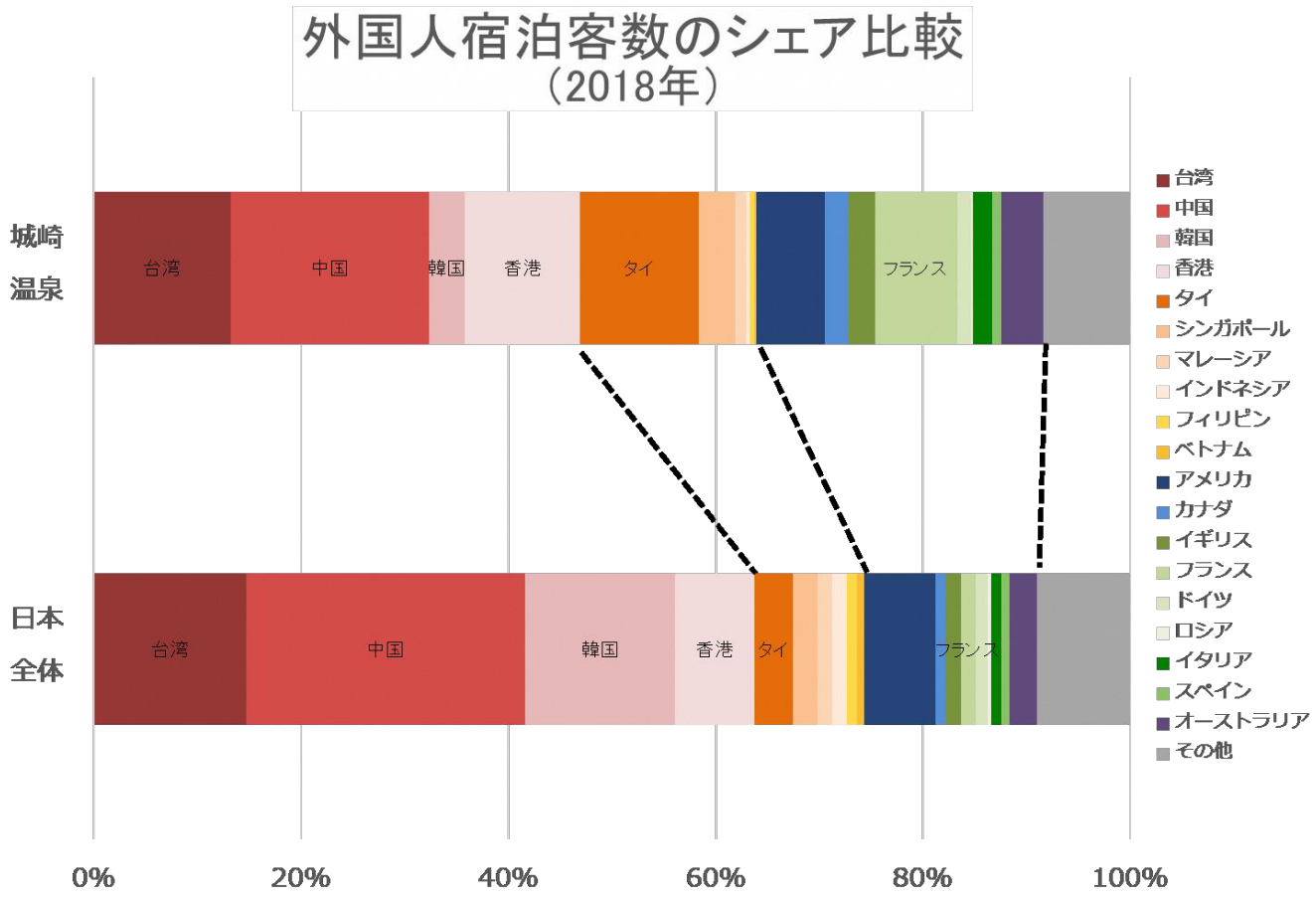


図７、図８出典：豊岡市大交流ビジョン

【図９】



出典：豊岡市大交流課調べ

以上の状況から、豊岡市の地域計画においては、文化観光を閑散期誘客の推進力として位置付けている。

現状、国内旅行客の傾向としては、大型連休の要因以外にも、カニ料理という強力なコンテンツがある冬場の来訪が多く、その時期が繁忙期となっている。

現在の閑散期を繁忙期へと底上げするためのコンテンツとして、豊岡演劇祭を開催している。開催時期の９月は閑散期ではあったが、豊岡演劇祭を開催することにより、来場者の宿泊だけではなく、出演者、スタッフの宿泊を伴うこともあり、閑散期解決の強力なコンテンツとなっている。また、演劇ファンは全国各地に存在し、現在の関西圏依存の集客ではなく、全国各地(特に関東圏)からの来訪が期待できる。

また、本計画により文化観光拠点の魅力向上と、二次交通対策などによる周遊促進を図ることで、滞在日数が伸びることが想定され、閑散期の底上げに繋がっていくものと考えられる。

さらに、インバウンド誘客についても、本計画を推進することで、豊岡市のインバウンド施策のターゲット国としている、日本文化への興味関心が高い欧米豪の誘客促進へと繋がり、閑散期解消への推進力となっていくと期待している。

4-1-3. 他の地域との比較

豊岡市は、豊岡市大交流ビジョン内で京都府京都市と岐阜県高山市と比較をしている(図 10)。

１つめの京都市との比較については、特にインバウンド分野で、京都市に訪問したあとに、豊岡市へ訪問しているという相関関係が強くみられることから、京都市への旅行者向けＰＲを実施する戦略をとっている。同じ関西圏でも京都は文化度の高い外国人旅行者が訪問(欧米豪が多い)する傾向があり、文化観光の観点からも比較検討する市であると考えられる。

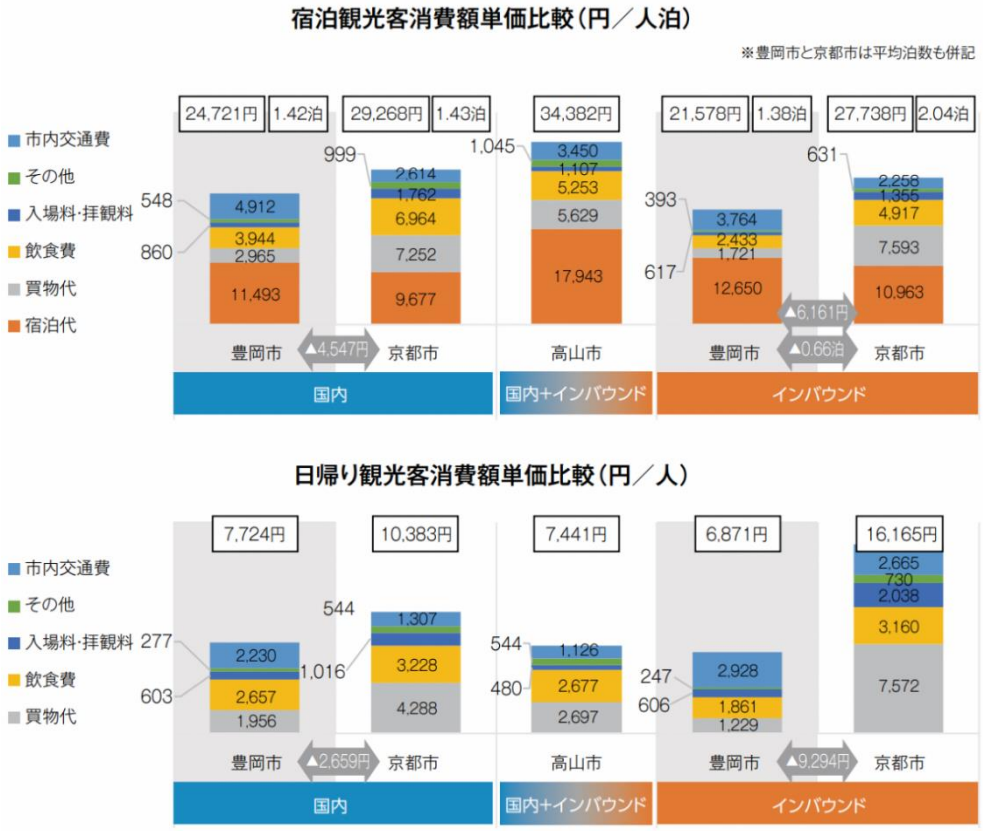
２つめの高山市については、人口規模も同規模(豊岡市約８万人、高山市約９万人)であり、立地条件としても大都市から少し離れている環境(豊岡市は大阪・京都から約 2.5 時間、高山市は名古屋から約 2.5 時間)であり、さらには、ともにインバウンド誘客(特に欧米豪中心)へ力を入れているなど、共通点が多く、比較検討する市として挙げている。

上記の、京都市、高山市と豊岡市のデータを比較すると、豊岡市の平均消費額単価は低い数字が示されている。３市とも欧米豪からの旅行者が多く訪れている地域だが、特に買物代や飲食費の差が大きく、滞在時間による影響があるものと推測され、今後、消費額単価向上に繋がる施策が重要である。

上記２つの都市と比較すると、豊岡市のみが演劇祭を行っており、演劇というコンテンツの強みを有している。しかしながら、豊岡市は高山市に比べ面積は小さいものの、観光資源の場所が広範囲に点在しており、さらには、二次交通が十分でないことから、周遊観光の促進が弱く、文化資源を活かしきれていない。各観光資源をうまく繋ぐことができれば、豊岡市での滞在日数の増加につながる。

また、世界的に城崎の認知度は向上してきたが、１泊のみ宿泊して豊岡市外へ移動する傾向がまだまだ強い。今後は、城崎を中心とした竹野、神鍋などの周遊観光地を旅マエに伝えることにより、市内に点在するコンテンツを繋ぎ、豊岡市内での宿泊を促す取組みを行っていく。それらの取組みの総合的な成果が観光消費額単価の上昇であると考えており、他の地域との比較についても観光消費額単価に重点を置いている。

【図 10】



出典：豊岡市大交流ビジョン

4-2. 課題

〈課題１　文化観光のための拠点施設の機能強化〉

豊岡市は「演劇やダンスなど舞台芸術」を文化資源と捉え、その資源の活用方法として“深さをもった演劇のまちづくり”を位置付けている。今後は拠点施設である城崎国際アートセンターに取り組みの解説や紹介機能を追加し、より多くの方が、理解を深める拠点施設として整備する必要がある。

〈課題２　外国人旅行者等、多様な方が城崎温泉だけでなく市内周遊観光を楽しめる環境整備〉

豊岡市における外国人旅行者は、2012 年以降急速に増えている。コロナ終息後も重要な市場と捉えており、外国人旅行者も安心して楽しめる環境を整備していく必要がある。

また、豊岡市の主要な観光地・宿泊地である城崎温泉を訪れる観光客を、市内の他の観光地・文化拠点へ誘導し、市内の周遊に結びつけることができていない。

このため、市内観光地や文化施設との連動や二次交通等の利便性向上を図る必要がある。

〈課題３　地域経済の安定に向けた観光需要の平準化〉

豊岡市の宿泊客数月別推移をみると、繁忙期と閑散期の差が大きいことが特徴であり、地域経済の安定に向けた観光需要の平準化が大きな課題となっていることから、豊岡市最大のマーケットである関西圏以外の新たな観光客を獲得し、閑散期における観光需要の向上を図る必要がある。

このため、豊岡市が進める“深さをもった演劇のまちづくり”や、そのリーディングプロジェクトである「豊岡演劇祭」等の情報発信が必要である。

〈課題４　観光客の平均消費額単価や滞在日数の増加〉

豊岡市を訪れる観光客の平均消費額単価は、国内日帰り観光客 7,724 円、国内宿泊観光客 24,721 円、インバウンド日帰り観光客 6,871 円、インバウンド宿泊観光客 21,578 円であり、京都市や高山市と比べて低い状況となっている(前掲図 10)。これは滞在時間による影響があるものと推測される。このため、文化観光拠点の魅力向上や、ナイトタイムエコノミーなどコンテンツの強化を図り、滞在時間、滞在日数を増やす取組みが求められる。

4-3. 文化観光拠点施設を中核とした文化観光の総合的かつ一体的な推進のため取組を強化すべき事項及び基本的な方向性

〈課題１に対する取組強化事項〉

文化観光促進のための拠点づくり

⑴ 中核拠点としての城崎国際アートセンター機能強化(“深さをもった演劇のまちづくり”を発信するための動画作成、動画視聴環境整備)

⑵ 玄武洞など壮大な自然環境での演劇公演のための環境整備

【事業１-①, ２-④, ５-①, ５-②】

〈課題２に対する取組強化事項〉

外国人旅行者等、多様な方が安心して便利に市内周遊できる仕組みづくり

⑴ 移動の利便性向上や、移動自体に魅力を付加することでの広域周遊、域内周遊の機会を創出する。

⑵ 芸術文化と観光を連動させ、予約決済を一元化することでの周遊促進を図る。

⑶ 文化観光施設の展示資料等の多言語化を観光庁「魅力的な多言語解説作成指針」に沿って行い、外国人旅行者の受入体制整備を行う。

【事業２-①～⑤, ４-③】

〈課題３に対する取組強化事項〉

“深さをもった演劇のまちづくり”のリーディングプロジェクトである豊岡演劇祭の充実と価値向上

⑴ 豊岡市の観光における閑散期である９月に開催している「豊岡演劇祭」の魅力を向上し、10 年で世界有数の演劇祭とすることで、関東圏、海外からの演劇ファンや観光客等、新たな観光客の獲得を図る。

⑵ 通年で演劇等の文化資源を楽しめる取組みを行うことにより、観光需要の平準化を図る。

⑶ まちづくりと連動した演劇祭として、観劇 MaaS アプリの開発など、様々な周遊促進施策を講じる。

【事業１-②～⑧，２-②，３-①～③，４-①～③】

〈課題４に対する取組強化事項〉

文化観光拠点等への機能追加や新たなコンテンツの創出による魅力の向上

⑴ 文化資源×演劇、文化観光拠点×ワーケーション等の取組みにより、文化観光拠点の魅力向上や観光客の滞在日数の増加を図る。

⑵ 観光客等が市内の様々な場所でアートに触れる機会を創出し、市内周遊を促進することにより、滞在時間の増加を図る。

⑶ 夜間帯における新たな市場創出等、事業者と連携した取組みを行うことにより、日帰りではなく、宿泊をして滞在をする選択肢を促し、宿泊者数の増加を図る。

【事業１-①～⑧，２-⑤，３-①～③】

4-4. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出

演劇を通して市民が多様性を受け入れ、コミュニケーション力が向上し、人を惹きつける価値のあるまちになることで、まちの文化度が高まってくる。まちの文化度が高まってくることにより、市外の人々を惹きつけ、市民の誇りにもつながってくる。市民が誇りをもつことでまちに活気がうまれ、ますます人を惹きつけ、観光したいまちへと繋がっていく。“深さをもった演劇のまちづくり”を行うことは、演劇という従来の文化資源としての力だけでなく、多様性をもったまちの受入体制にもつながっており、文化観光の大きな推進力となっている。

また、演劇的手法をまちづくり・観光地演出と考えると、何に光を当て、どこに注目させ、どう伝えるかというコミュニケーションデザインの点でも活用は可能となっていく。豊岡の行うまちづくりそのものが観光資源（コウノトリの野生復帰及び深さをもった演劇のまちづくり）となりえることから、観光推進事業者がこれを届きやすい形にして、世界へ提供することで、より多くの豊岡ファンが生まれ、観光地としてのブランド価値が一層向上していく。

５．目標

目標①：観光入込客数の増加(外国人延べ宿泊者数)（課題２関連、取組強化事項２関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

2018 年度に策定した豊岡市大交流ビジョンでは、インバウンド延べ宿泊者数について、2030 年には 160 千人泊を目標値としており、2019 年度と比較しても 10 年間で２倍以上にすることを目標としている。しかしながら、本計画では新型コロナウイルスよるインバウンドへの影響を加味した目標設定としている。また、集計方法は各宿泊施設に四半期に一度宿泊者数をヒアリングして集計する。

※影響分析については、国連世界観光機関(UNWTO)駐日事務所が 2021 年２月 15 日報道発表資料上にある「UNWTO の 2021-2024 年における長期のシナリオ」のおいて、「国際観光が 2019 年の水準に戻るには２年半から４年かかる可能性があることを示している。」という分析を参考に目標値を設定している。

年度	実績		目標				
	2019 年度	2020 年度	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
目標値 単位：人泊	63,648	10,018	10,000	10,000	20,000	63,650	70,000
事業１－⑤： 文化資源を活用した観光客回遊促進事業				豊岡市出身書家等の作品を活用した企画展 ・ワークショップの開催	・豊岡市出身書家等の作品を活用した企画展 ・ワークショップの開催 ・作品保管場所の整備、作品の修復	・豊岡市出身書家等の作品を活用した企画展 ・ワークショップの開催 ・作品保管場所の整備、作品の修復	
事業１－⑥： 文化観光資源×デジタルアート事業			豊岡演劇祭にて AR を活用した公演の実証実験	・デジタルアート展示 ・AR 公演やデジタルアート展示を組み込んだ旅行商品の造成	・デジタルアート展示 ・AR 公演やデジタルアート展示を組み込んだ旅行商品の造成	・デジタルアート展示 ・AR 公演やデジタルアート展示を組み込んだ旅行商品の造成	・デジタルアート展示 ・AR 公演やデジタルアート展示を組み込んだ旅行商品の造成

事業１－⑦： 美しい村を舞台とした演劇公演事業			豊岡演劇祭内での公演 ・農村歌舞伎舞台や、壮大な自然環境の中で、公演場所の歴史・文化を取り入れた演劇公演 ・地域の方も一緒に参加し、公演後に観客との交流会を開催 ・交通とセットの観劇ツアーの造成（運転手ガイド）や二次交通の充実	演劇祭を含む閑散期での公演 ・農村歌舞伎舞台や、壮大な自然環境の中で、公演場所の歴史・文化を取り入れた演劇公演 ・地域の方も一緒に参加し、公演後に観客との交流会を開催 ・交通とセットの観劇ツアーの造成（運転手ガイド）や二次交通の充実	演劇祭を含む閑散期での公演 ・農村歌舞伎舞台や、壮大な自然環境の中で、公演場所の歴史・文化を取り入れた演劇公演 ・地域の方も一緒に参加し、公演後に観客との交流会を開催 ・交通とセットの観劇ツアーの造成（運転手ガイド）や二次交通の充実	演劇祭を含む閑散期での公演 ・農村歌舞伎舞台や、壮大な自然環境の中で、公演場所の歴史・文化を取り入れた演劇公演 ・地域の方も一緒に参加し、公演後に観客との交流会を開催 ・交通とセットの観劇ツアーの造成（運転手ガイド）や二次交通の充実	演劇祭を含む閑散期での公演 ・農村歌舞伎舞台や、壮大な自然環境の中で、公演場所の歴史・文化を取り入れた演劇公演 ・地域の方も一緒に参加し、公演後に観客との交流会を開催 ・交通とセットの観劇ツアーの造成（運転手ガイド）や二次交通の充実
事業４－③ 豊岡市外国人旅行者向けサイト 「VisitKinosaki」事業			サイト運営 コンテンツ改善	サイト運営 コンテンツ改善	サイト運営 コンテンツ改善	サイト運営 コンテンツ改善	サイト運営 コンテンツ改善

目標②：豊岡演劇祭来場者数　課題３関連、取組強化事項３関連）
（目標値の設定の考え方及び把握方法） 2019 年から開催されている豊岡演劇祭では、“深さをもった演劇のまちづくり”の中で、演劇を上演するだけでなく、まちづくりに関する様々な実証実験を行うことで効果検証を行っている。豊岡演劇祭の来場者数が増加することが、まちづくりの取組みへの評価が高まることと考えられるため、来場者数（公式プログラム・フリンジプログラムの来場者数）を目標とする。（2021 年以降は前年比 1.1 倍）

年度	実績		目標				
	2019 年度	2020 年度	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
目標値 単位：人	1,427	4,730	5,203	5,723	6,295	6,924	7,616
事業１－②： 玄武洞などジオサイトにおける屋外文化体験による魅力強化事業			・玄武洞の魅力発信へとつながる野外公演 ・ジオサイトを活用した野外公演	・玄武洞の魅力発信へとつながる野外公演 ・ジオサイトを活用した野外公演	・玄武洞の魅力発信へとつながる野外公演 ・ジオサイトを活用した野外公演	・ジオサイトを活用した野外公演	・ジオサイトを活用した野外公演
事業１－④： 廃ビル・空き店舗・空きスペースなど文化資源の価値発掘および定着事業			・フェスティバルセンターの開設 ・廃ビル・空き店舗・空きスペースなどで演劇公演/インスタレーション展示	・フェスティバルセンターの開設 ・廃ビル・空き店舗・空きスペースなどで演劇公演/インスタレーション展示	・廃ビル・空き店舗・空きスペースなどで演劇公演/インスタレーション展示	・廃ビル・空き店舗・空きスペースなどで演劇公演/インスタレーション展示	・廃ビル・空き店舗・空きスペースなどで演劇公演/インスタレーション展示
事業１－⑧： 豊岡演劇祭事業			豊岡演劇祭の開催	豊岡演劇祭の開催	豊岡演劇祭の開催	豊岡演劇祭の開催	豊岡演劇祭の開催
事業３－③： レストランバス運行事業			レストランバスの運行	レストランバスの運行	レストランバスの運行		
事業４－②： 豊岡演劇祭プロモーション事業			・豊岡演劇祭 2021 の映像アーカイブ作成 ・豊岡演劇祭の WEB ページ更新、多言語化	・豊岡演劇祭 2022 の映像アーカイブ作成 ・豊岡演劇祭の WEB ページ更新、多言語化	・豊岡演劇祭 2023 の映像アーカイブ作成 ・豊岡演劇祭の WEB ページ更新、多言語化	・豊岡演劇祭 2024 の映像アーカイブ作成 ・豊岡演劇祭の WEB ページ更新、多言語化	・豊岡演劇祭 2025 の映像アーカイブ作成 ・豊岡演劇祭の WEB ページ更新、多言語化

目標③：観光入込客数の増加(国内旅行者延べ宿泊者数)（課題１、３、４関連、取組強化事項１、３、４関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

2018 年度に策定した豊岡市大交流ビジョン内の国内旅行者の延べ宿泊者数目標値と同じ数値を設定。(2030 年 1,115 千人泊)豊岡市大交流ビジョンでは過去５年間の実績から６%増の傾向であったが、関西圏の大幅な人口減(▲18%)が予測されているトレンドを踏まえ、現状維持を選択した。

集計方法については、毎月観光協会などからの数値報告を集計する。

年度	実績		目標				
	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
目標値 単位：千人泊	1,104	集計中	1,115	1,115	1,115	1,115	1,115
事業１－③： 豊岡市独自のアーティスト認証制度事業				・審査制度構築 ・PR 用ホームページ制作 ・認証アーティストへの市内観光地での活動に係る旅費・出演料支援など	・認証アーティストへの市内観光地での活動に係る旅費・出演料支援など	・認証アーティストへの市内観光地での活動に係る旅費・出演料支援など	・認証アーティストへの市内観光地での活動に係る旅費・出演料支援など
事業４－①： 深さをもった演劇のまちづくりプロモーション事業				・ホームページの作成 ・冊子の作成 ・その他デジタルコンテンツ作成	・ホームページの更新 ・その他デジタルコンテンツ作成	・ホームページの更新 ・その他デジタルコンテンツ作成	・ホームページの更新 ・その他デジタルコンテンツ作成

事業５－①： 城崎国際アートセンターの受入体制整備事業			・文化資源の発信拠点としての整備(動画など発信コンテンツ閲覧に係る整備)	・文化資源の発信拠点としての整備（ワーケーション予約システム導入)	・文化資源の発信拠点としての整備(ワーケーション予約システムコンテンツ改修)、MICE 受入体制整備		
事業５－②： 玄武洞などジオサイトにおける屋外文化体験による魅力強化事業			野外公演対応への照明設備等整備(玄武洞整備)	野外公演対応への照明設備等整備(その他ジオサイト整備)			

目標④：観光消費額単価(国内で宿泊を伴う旅行者)　課題１、３、４関連、取組強化事項１、３、４関連)

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

2018 年度に策定した豊岡市大交流ビジョンで設定したものと同じ目標値を設定(2025 年 25,500 円/人)。市内の観光案内所にて国内外の観光客へヒアリングや WEB アンケートを行い集計する。

※目標数値が 2020 年度の実績から下がっている状況であるが、新型コロナウイルスの影響も未知数であるため、豊岡市大交流ビジョン策定時の目標数値を設定している。なお、豊岡市大交流ビジョンにおいては、2024 年度に見直しを実施することになっている。

年度	実績		目標				
	2019 年度	2020 年度	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
目標値 単位：円/人	27,163	26,695	25,100	25,200	25,300	25,400	25,500
事業２－①： 全但バス・コバス・イナカーバスロケーションシステム導入事業			バスロケーションシステム導入、デジタルサイネージ導入、バスダイヤ改善(全但バス路線への	バスロケーションシステム導入、デジタルサイネージ導入、バスダイヤ改善(豊岡市営路線への	バスロケーションシステム導入、デジタルサイネージ導入、バスダイヤ改善(2022 年導入した路		

			導入）	導入）	線以外の豊岡市営路線への導入）		
事業２－②： 日本初の観劇 MaaS アプリ制作事業				アプリ開発・普及啓発 アプリ実装への実証実験実施	開発したアプリの演劇祭への導入 ※演目が毎回違うためアプリ更新要	開発したアプリの演劇祭への導入 ※演目が毎回違うためアプリ更新要	開発したアプリの演劇祭への導入 ※演目が毎回違うためアプリ更新要
事業２－⑤： 演劇観光列車運行事業			演劇観光列車運行の実証期間	演劇観光列車運行の立上げ期間			
事業２―⑥ 利便性向上による回遊促進事業				・多様な文化施設のわかりやすい案内表示 ・“深さをもった演劇のまちづくり”を紹介する市民ボランティア育成 ・システムを活用した新たな旅行プランの提案	・多様な文化施設のわかりやすい案内表示 ・“深さをもった演劇のまちづくり”を紹介する市民ボランティア育成 ・システムを活用した新たな旅行プランの提案	・多様な文化施設のわかりやすい案内表示 ・“深さをもった演劇のまちづくり”を紹介する市民ボランティア育成 ・システムを活用した新たな旅行プランの提案	・多様な文化施設のわかりやすい案内表示 ・“深さをもった演劇のまちづくり”を紹介する市民ボランティア育成 ・システムを活用した新たな旅行プランの提案
事業３－①： 夜間帯における新たな市場創出事業			・日高・豊岡地域でのナイトマーケット開催 ・城崎温泉での夜の屋外公演開催	・日高・豊岡地域でのナイトマーケット開催 ・城崎温泉での夜の屋外公演開催	・日高・豊岡地域でのナイトマーケット開催 ・城崎温泉での夜の屋外公演開催	・日高・豊岡地域でのナイトマーケット開催 ・城崎温泉での夜の屋外公演開催	・日高・豊岡地域でのナイトマーケット開催 ・城崎温泉での夜の屋外公演開催

事業３－②： 飲食・宿泊事業所における名作文学リーディングによる高付加価値造成事業			旅行商品造営販売（城崎エリアでの商品造成）	旅行商品造営販売（日高エリアでの商品造成）	旅行商品造営販売（出石・但東エリアでの商品造成）	旅行商品造営販売（竹野エリアでの商品造成）	旅行商品造営販売（豊岡市街地エリアでの商品造成）

目標⑤：NPS（ネットプロモータースコア）（課題１、２、３、４関連、取組強化事項１、２、３、４関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

2018 年度に策定した豊岡市大交流ビジョンで設定したものと同じ目標値（2030 年国内 20.0 ポイント、海外 63.5 ポイント）を設定。市内の観光案内所にて国内外の観光客へヒアリングや WEB アンケートを行い集計。

※海外に関しては、他の地域に比べても比較的高い値であるため現状を維持することを目指している。

参考：2019 年度京都市観光協会発表の NPS（国内：18.3 ポイント、海外 54.2 ポイント）

※目標数値が 2019 年度の実績よりも下がっている状況であるが、新型コロナウイルスの影響も未知数であるため、豊岡市大交流ビジョン策定時の目標数値を設定している。なお、豊岡市大交流ビジョンにおいては、2024 年度に見直しを実施することになっている。

※NPS（Net Promoter Score）とは、企業や商品にどれだけ愛着があるか（顧客ロイヤルティ）を数値化した指標。

【NPS の計算方法】

「あなたはこの商品をどのくらい友人・家族に勧めたいですか？0～10 の点数をつけてお答えください。」という質問に回答した人を、以下の３つのカテゴリーに分ける。

１．批判者：０～６点と答えた人。サービスに対して不満を持っている。

２．中立者：７、８点と答えた人。サービスに対して、満足も不満足もしていない。

３．推奨者：９、10 点と答えた人。サービスに対して満足している。

この分類結果をもとに、以下の計算式で NPS を算出　　NPS = [推奨者の割合(%)] - [批判者の割合(%)]

例）推奨者の割合が 10%で批判者の割合が 30%の場合　NPS = 10 - 30 = -20 ポイント

年度	実績		目標				
	2019 年度	2020 年度	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
目標値 単位：ポイント	国内：18.5 海外：68.9	集計中	国内：18.9 海外：63.5	国内：19.0 海外：63.5	国内：19.1 海外：63.5	国内：19.2 海外：63.5	国内：19.3 海外：63.5

事業１－①： 城崎国際アートセンターでの発信拠点としての機能強化			“深さをもった演劇のまちづくり”“演劇・舞台芸術”を伝える PR 動画を作成･KIAC 内での公開	“深さをもった演劇のまちづくり”“演劇・舞台芸術”を伝える PR 動画を作成･KIAC 内での公開	“深さをもった演劇のまちづくり”を伝える PR 動画の更新版作成･KIAC 内での公開	“深さをもった演劇のまちづくり”を伝える PR 動画の更新版作成･KIAC 内での公開	“深さをもった演劇のまちづくり”を伝える PR 動画の更新版作成･KIAC 内での公開
事業２－③： インフォメーションセンター運営			インフォメーションセンターの運営	インフォメーションセンターの運営	インフォメーションセンターの運営	インフォメーションセンターの運営	インフォメーションセンターの運営
事業２－④： 文化観光施設多言語化対応				・各文化観光施設のパンフレットやホームページなどを多言語化 ・公演演目の多言語化対応	・各文化観光施設のパンフレットやホームページなどを多言語化 ・公演演目の多言語化対応	・各文化観光施設のパンフレットやホームページなどを多言語化 ・公演演目の多言語化対応	・各文化観光施設のパンフレットやホームページなどを多言語化 ・公演演目の多言語化対応

６．目標の達成状況の評価

【検証方法】

毎年度６月に学識経験者、市民等で構成する「豊岡市地方創生戦略会議」（座長：市長）において、ＫＰＩ数値の推移及びその原因分析を踏まえ、取り組んだ事業と数値の変化の因果関係を再検証し、新たな課題への対応、向かうべき方向を議論し、必要な修正を行うことによりＰＤＣＡサイクルを回す。

【外部組織の参画者】

大学関係者、芸術関係者、京都丹後鉄道運行会社、たじま農業協同組合、豊岡市工業会、豊岡市商工会、婚活ＮＰＯ、子育てセンター、地域ＦＭ放送「エフエムたじま」、城崎温泉旅館協同組合、民宿経営者、農業学習ＮＰＯ、ボランティアグループ、市民

【検証結果の公表の方法】

豊岡市ホームページで公表

7．中核とする文化観光拠点施設

文化観光拠点施設名	城崎国際アートセンター(KIAC)

主要な文化資源

豊岡市は「演劇やダンスなど舞台芸術」という文化資源を“深さをもった演劇のまちづくり”の取組みの中心として保存・活用している。その“深さをもった演劇のまちづくり”の起源となったのが、城崎国際アートセンターの取組みである。

KIAC が文化資源保存活用施設として 2014 年から実施しているアーティスト・イン・レジデンスでは、世界最先端のアーティスト（演劇、ダンス、美術家など）が滞在制作を行っている。これにより、舞台芸術という文化資源の保存に欠かせない「舞台芸術の創作プロセスの知見アーカイブ」と「アーティストとのネットワークの構築」、これらを活用した「世界最先端の舞台芸術作品創作」という好循環を生み出している。

まちでの演劇のつながりを、単に演劇作品を鑑賞するためだけの施設でなく、アーティストが創作活動を行い、まちに滞在し、地域の方と交流することで、まちに文化を通じたコミュニケーションが生まれ、多様な活動のきっかけとなっていることが“深さをもった演劇のまちづくり”の起源となっている。また、市内にある近畿最古の芝居小屋「出石永楽館」や劇団青年団の拠点である「江原河畔劇場」などとの連携においても、中核的な役割を担っている。

■近畿最古の芝居小屋「出石永楽館」

■江原河畔劇場

＜KIAC アーティスト・イン・レジデンス プログラム＞

年間を通して実施しているアーティスト・イン・レジデンスプログラムでは、年に１回の公募によってアーティストを選定し、その滞在制作を支援している。アーティストは最短３日間から最長３か月の間、KIAC に滞在し、その間ホール、スタジオ等を 24 時間無料で使用することが可能。優れた芸術作品を世界中に送り出すことと、試演会やワークショップなどの交流プログラムを通して地域の方々が多様な芸術活動に触れられる環境を創出することをミッションとしている。加えて 2016 年度からは、年間２～３作品程度の主催・製作での公演事業、学校や福祉施設でのワークショップなどの普及事業、インターンシップによる人材育成事業にも取り組むなど、劇場、アートセンターとしての機能強化も積極的に行っている。また、豊岡演劇祭実行委員会との連携で、豊岡演劇祭プログラムの会場として活用されている。

主要な文化資源についての解説・紹介の状況

現状の取組

・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第１条第１項第１号）

現状は、館長を含めたスタッフが、滞在アーティストや、視察に訪れた団体などの一部の方へ向けて KIAC の取組み紹介を行っており、その中で「演劇・舞台芸術」の歴史や魅力に加え、“深さをもった演劇のまちづくり”についても解説・紹介を行っているが、すべての来館者への解説・紹介ができている状況ではない。

・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第１条第１項第２号）

限定的ではあるが、５G回線を活用して東京とオンラインで繋ぎ、ワークショップを実施している。

・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第１条第１項第３号）

館内掲示、パンフレット等は英語にて作成し、英語が話せる館内スタッフも常駐している。

本計画における取組

・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第１条第１項第１号）

舞台芸術に関してはKIAC の初代芸術監督である、平田オリザ氏監修による「光速・日本近代演劇史」レクチャーをベースに演劇の理解促進を図る動画を作成し、KIAC の１階スペースで自由に視聴できるようにする。日本の伝統的な舞台芸術から現代演劇までの系譜を説明するとともに、1990 年代以降に登場した現代口語演劇の特徴等を紹介し、それが日本の演劇史のみならず世界の演劇史の中でどのように位置付けられるかも含めることで、演劇・舞台芸術の理解促進を図る。

また、KIAC への自治体及び企業等からの視察が毎年 50 件程度あり、”深さをもった演劇のまちづくり”と KIAC への関心は非常高いことが窺える。現在は館長によるパワーポイントを使用した 30 分程度のプレゼンテーションを行なっているが、これをベースに解説紹介動画を作成する予定。さらに、演劇的手法を用いたワークショップを合わせた、講義を中心にメニューを組み、視察・研修旅行のニーズを取り込んでいきたい。

・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第１条第１項第２号）

動画鑑賞設備が整うことで、滞在制作の施設である強みを活用し、作品を作るプロセスやアーティスト自身による作品への解説等も上映を予定。また、Wi-Fi の整備を行うことで、実施してきたオンラインでの遠隔ワークショップの取組みを磨き上げ、KIAC への来訪者が世界と繋がりあえる環境を整える。また、“演劇・舞台芸術”“深さをもった演劇のまちづくり”の解説紹介動画を作成し上映。

・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第１条第１項第３号）

上記に記載した“演劇・舞台芸術”“深さをもった演劇のまちづくり”の解説紹介動画に関して、豊岡市所属の CIR と連携し、文化観光のターゲットである欧米豪の国々に対してもっとも共通している英語での字幕等を追加する。また、公演演目によっては、フランス語字幕など、多言語対応に取り組む。

施行規則第１条第２項第１号の文化観光推進事業者との連携

現状の取組

・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

【豊岡演劇祭実行委員会との連携】

豊岡演劇祭実行委員会との連携で、豊岡演劇祭プログラムの会場として活用し、KIAC の拠点である城崎温泉への宿泊などを通じて観光消費額の向上へ繋がる取組みを進めている。また、城崎地域での公演演目に関しては、地元事業者への説明を共同して行っている。

【豊岡ツーリズム協議会、一般社団法人豊岡観光イノベーションとの連携】

豊岡ツーリズム協議会を窓口として、地域事業者や地域の方とともに城崎温泉街の磨き上げなど定期的に意見交換を行っている。また、メディア招聘事業として取材や撮影に訪れる方々へ市の来訪すべき場所として KIAC を紹介しており、来訪者には“深さをもった演劇のまちづくり”を伝えている。

・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理･分析

現状は取り組めていない状況

・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びＫＰＩの設定・ＰＤＣＡサイクルの確立

現状は取り組めていない状況

本計画における取組

・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

城崎国際アートセンターを中心として、“深さをもった演劇のまちづくり”の取組みを発信していく中で、観光客の受入体制や PR について豊岡ツーリズム協議会を窓口として、地元の事業者などに取組みを浸透させてもらう。豊岡観光イノベーションについては、ワーケーション、MICE 受入整備などが整ったのちに、旅行商品の造成や、インバウンド向け PR の計画立案、実行を行い、文化観光としての誘客促進を図る。

・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理･分析

豊岡観光イノベーションと連携して、インバウンド向け WEB サイト VisitKinosaki のデータを分析し、文化観光の推進に対してより有効な打ち手を常に考え実行していく。

・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びＫＰＩの設定・ＰＤＣＡサイクルの確立

豊岡観光イノベーションと連携して、アンケートにより NPS を取得する。また、豊岡ツーリズム協議会を通じて、地元の事業者への現地調査も行い、国内旅行者に対して文化観光の取組みへの効果検証を行っていく。

施行規則第１条第２項第２号の文化観光推進事業者との連携

現状の取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

豊岡市が借り受けている電動小型自動車 COMS を KIAC に設置し、貸出しを行い、滞在者が城崎温泉街へ気軽に足を運べる仕組みを構築している。また、城崎国際アートセンターに滞在しているアーティストは特別に城崎町民として認め、本来であれば 700 円かかる外湯の入浴金額を、110 円で楽しめるようにしている。

また、豊岡ツーリズム協議会と連携し、KIAC を含む城崎温泉の PR のためにメディア招聘や、江原河畔劇場と連携して、アーティストなどの視察を受入れることで魅力発信に努めている。

本計画における取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

全但バス㈱と連携してバスロケーションシステムを導入し、バスの位置情報をリアルタイムで提供し、周遊観光の促進を図る。また、豊岡演劇祭実行委員会と連携して、KIAC から自転車で約 15 分のところに位置する国の天然記念物である玄武洞を舞台とした演劇公演を行い、周遊観光を促進する。

8．地域文化観光推進事業

8-1. 事業の内容

8-1-1. 文化資源の総合的な魅力の増進に関する事業

（事業番号１－①）

事業名	城崎国際アートセンターでの発信拠点としての機能強化
事業内容	【事業番号５－①と連携】 城崎国際アートセンターが“深さをもった演劇のまちづくり”の発信拠点となるため拠点整備を行う。 “深さをもった演劇のまちづくり”の主要な文化拠点として、「日本の今に続く演劇の歴史」や、「演劇ってなんだろ？」というテーマに対して、今はどういう流れで、どういうコンテンツが生まれるかなどの紹介動画を作成。さらには、動画鑑賞設備が整うことで、滞在制作の施設である強みを活かし、滞在中のアーティストの創作プロセスやアーティスト自身による作品の解説等の上映も想定している。さらに、豊岡市が推進している“深さをもった演劇のまちづくり”の動画も作成する。 動画を視聴できる環境を含め、MICE やワーケーション受入体制整備を行い、“深さをもった演劇のまちづくり”が体験できるような環境を整える。さらには、滞在者がワークショップなどを通じて地域の人々に対して特別な体験を提供することで、地域の新しい魅力発信や地域活性化へつながっていく。 長期的な視点としては、新型コロナウイルスの影響で、チームビルディングとしてワークショップの需要が高まっており、そのコンテンツとして、“深さをもった演劇のまちづくり”を活用した企業研修や、ゼミ合宿などの MICE 受入れを視野に入れており、ワーケーション受入体制を整えることで、今後の MICE 受入基盤を構築し、新しい形での誘客受け入れを行う。 そのため、どのようなターゲット層にどのようにアプローチするのか示唆を得るためのモニターツアーを実施して城崎国際アートセンターの取り組みが届けられ、誘客促進策につながるための取り組みを実施する。将来的には継続的な誘客になるようコンテンツ化を図る。 【実施事項】 ・“演劇・舞台芸術”、“深さをもった演劇のまちづくり”を伝える PR 動画を作成・KIAC 内での公開 ・城崎国際アートセンターや地域の魅力発信につながるモニターツアー
実施主体	豊岡市、豊岡演劇祭実行委員会
実施時期	2021 年度～2025 年度
継続見込	豊岡市の自主財源による継続
アウトプット目標	動画を２本作成（“演劇・舞台芸術”と“深さをもった演劇のまちづくり”）
必要資金調達方法	11.1 百万円（内訳：3.7 百万円（自己資金）、7.4 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁）

（事業番号１－②）

事業名	玄武洞などジオサイトにおける屋外文化体験による魅力強化事業
事業内容	【事業番号５－②と連携】 豊岡演劇祭において山陰海岸ジオパークのジオサイトに登録されている文化資源を活用した演劇公演を行う。 現在も文化資源としてとても大きな魅力がある国の天然記念物である玄武洞があり、文化観光拠点である城崎国際アートセンターとも近い位置関係（自転車で約 15 分）にあるが、個別の取組みに留まっており、有機的な連携ができていない。 周遊観光を促進するためにも、玄武洞のさらなる文化資源の磨き上げを行う。それは、玄武洞を演劇や音楽などパフォーミングアートを発信するための舞台としてハード整備を行うことである。また、豊岡演劇祭開催時には、玄武洞という壮大な舞台に相当しうる、世界を代表する劇団を招き公演をし、玄武洞の魅力と価値を国内外へ向けて発信する。 また、玄武洞で成功例をつくり、竹野海岸、神鍋高原でも、地域の歴史や自然景観を活かしたサイトスペシフィックな舞台芸術作品を上演し、価値の再発見や国内外への発信を行なう。 ■国の天然記念物　玄武洞　■竹野海岸　■神鍋高原 【実施事項】 ・玄武洞の魅力発信へとつながる野外公演 ・ジオサイトを活用した野外公演 ・野外公演対応への照明設備（電気系統）整備
実施主体	豊岡演劇祭実行委員会
実施時期	2021 年度～2025 年度
継続見込	豊岡演劇祭実行委員会の自主財源による継続
アウトプット目標	ジオサイトでの演劇公演１本/年
必要資金調達方法	■玄武洞やジオサイトを舞台とした野外公演実施 40.2 百万円（内訳：13.4 百万円（自己資金）、26.8 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁）） ■野外公演に対応した照明設備等整備 ※事業番号５－②に計上

（事業番号１－③）

事業名	豊岡市独自のアーティスト認証制度事業
事業内容	市独自の認証による大道芸を中心としたパフォーマンスのライセンスを付与（年間５団体を想定）し、文化資源としての大道芸を豊岡に根付かせ、パフォーマーが文化施設を中心とした自主的に市内で自由に活動を行うことができる環境を整え、観光客へ

	のアートに触れる機会を創出し、誘客促進を図る。 　各パフォーマーが年２回以上の豊岡公演を行うことを認証条件とし、特に閑散期での公演を促す。（豊岡演劇祭以外の公演も実施） 【実施事項】 ・審査制度構築 ・PR 用ホームページ制作 ・認証アーティストへの市内観光地での活動に係る旅費・出演料支援など
実施主体	豊岡市
実施時期	2022 年度～2025 年度
継続見込	豊岡市の自主財源による継続
アウトプット目標	市内での認証アーティストによる大道芸パフォーマンス 10 回/年以上
必要資金調達方法	7.8 百万円（内訳：2.6 百万円（自己資金）、5.2 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

（事業番号１－④）

事業名	廃ビル・空き店舗・空きスペースなど文化資源の価値発掘および定着事業
事業内容	日本を代表する劇作家平田オリザ氏および劇団青年団の活動拠点、江原河畔劇場開設により新たな文化交流エリアとなった江原駅周辺。電車移動では豊岡の玄関口に位置し、空港・高速道路のインターチェンジからも近く、元来国分寺を有する同エリアは豊岡だけでなく但馬地域の文化交流の拠点となりはじめている。 　豊岡演劇祭 2020 においては、江原河畔劇場そばの廃ビルを活用し、フェスティバルのインフォメーションセンターを開設し来訪客の交流拠点となった。また、空き地を活用し野外マーケットを開設することで、来訪客、演劇祭関係者、地域住民の交流拠点となった。 　さらに、空き店舗などを活用し、フリンジ公演、インスタレーション展示などを行うことで演劇祭期間中もっとも多くの作品を上演するエリアとなった。豊岡演劇祭 2020 の成果として、江原駅周辺の空き店舗などの活用による事業は、地域の既存資源に対し文化的な価値を発掘することで、城崎温泉一点集中型の観光施策から市内回遊型の文化観光施策に向けての起点ができたといえる。 　本事業においては、当該エリアの拠点整備やアーティストの作品発表を引き続き実施することで、一層、市内回遊性の向上を図り、定着させていくための事業とする。（2022 年以降は豊岡演劇祭以外の公演も視野に検討していく。） 【実施事項】 ・フェスティバルセンター改装、開設 ・演劇公演、インスタレーション展示
実施主体	豊岡演劇祭実行委員会
実施時期	2021 年度～2025 年度
継続見込	豊岡演劇祭実行委員会の自主財源にて継続
アウトプット目標	廃ビル・空き店舗・空きスペースでの公演１本/年
必要資金	49.8 百万円

調達方法	（内訳：16.6 百万円（自己資金）、33.2 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

（事業番号１－⑤）

事業名	文化資源を活用した観光客回遊促進事業
事業内容	豊岡市出身書家等の作品を活用した企画展を各拠点で巡回して実施し、市内各地への誘客促進を行う。 豊岡市では、城崎国際アートセンターをはじめ、出石永楽館や江原河畔劇場、城崎文芸館等、広大な豊岡市域に文化施設が点在しており、観光客の回遊につながっていない状況にある。また、豊岡市には演劇の他にも多様な文化資源があるが、うまく活用できていない状況にあるため、これら豊岡固有の文化資源を活用し、文化施設等と連携した事業を実施することにより、観光客の回遊を促進する。 作品としては、世界的書道家森田子龍、川尾朋子の作品展示を想定している。 【実施事項】 ・豊岡市出身書家等の作品を活用した企画展 ・ワークショップの開催 ・作品保管場所の整備、作品の修復
実施主体	豊岡市
実施時期	2022 年度～2024 年度
継続見込	期間中に文化観光推進者と協議し、計画終了後も継続できる仕組みを見出す
アウトプット目標	豊岡市出身書家等の作品を活用した企画展の開催１回/年
必要資金調達方法	15 百万円（内訳：５百万円（自己資金）、10 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

（事業番号１－⑥）

事業名	文化観光資源×デジタルアート事業
事業内容	文化観光施設内にて最先端のデジタルアートを展示し、まったく新しい文化観光施設の活用方法を見出す。 現在、豊岡市内では、城崎文芸館にライゾマティックスのデジタルアートが展示されており、好評を博している。また、豊岡演劇祭 2020 では、同じくライゾマティクスが作成した「銀河鉄道の夜」をモチーフとしたディスクトップシネマの展示も行ない、こちらも好評であった。地方都市、伝統的なまちなみと最先端のデジタルアートは違和感を含め、相性が良いと考える。今まで集客できなかった客層へのアプローチを図り、本来の文化観光施設内で展示されている作品の価値や地域のランドスケープの魅力を再発見するきっかけとしたい。特にインバウンド層に対するアピールを重点に置いて情報発信を行う。 また、脆弱な地方の二次交通の隙間（待ち時間）を埋める施策としても、閲覧時間の制限されない展示型のメディアアートは有効と考える。合わせて、豊岡演劇祭は、国際祭を保持するため、上記以外に海外アーティストによる VR 映像等の公演を予定しており、今後の演劇祭としては欠かせないコンテンツになると考えている。 【実施事項】 ・デジタルアート展示

	・デジタルアート展示を組み込んだ旅行商品の造成
実施主体	豊岡市、豊岡演劇祭実行委員会
実施時期	2021 年度～2025 年度
継続見込	期間中に文化観光推進者と協議し、計画終了後も継続できる仕組みを見出す
アウトプット目標	デジタルアート展示を組み込んだ旅行商品の造成１本
必要資金調達方法	30.6 百万円（内訳：10.2 百万円（自己資金）、20.4 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

（事業番号１－⑦）

事業名	美しい村を舞台とした演劇公演事業
事業内容	自然風土をいかした文化資源の価値造成、自然豊かな美しい村に残る農村歌舞伎舞台や豊岡市の雄大な自然を活用した演劇公演を行い、今まで観光客が足を踏み入れなかった場所への誘客を行い、地域の歴史・文化を伝え、穏やかな心になる体験を提供する。また、地域の方々と協力して公演することで、現地の方とのコミュケーションを行う場を提供する。 今までは地元の方だけで行っていた神事やお祭りなどを人が来るようなコンテンツへと昇華させ、地域に住む人とともに成長する文化観光を造成する。特に地域との交流が響くとされるインバウンド客の誘客を促進するため、一般社団法人豊岡観光イノベーションと連携し、交通とセットになったツアーを造成する。 【実施事項】 ・兵庫県指定文化財でもある安牟加神社の農村歌舞伎舞台や神鍋高原等での演劇公演 ・公演場所の歴史・文化を取り入れた演劇公演 ・地域の方も一緒に参加し、公演後に観客との交流会を開催 ・交通とセットになった観劇ツアーの造成(運転手ガイド)や二次交通の充実 2021 年度は豊岡演劇祭の中で公演を行い、今後の展開の可能性を見出すことができれば 2022 年度以降は演劇祭以外の期間での公演を実施する。 ■安牟加神社　　■神鍋高原
実施主体	豊岡市、豊岡演劇祭実行委員会、一般社団法人豊岡観光イノベーション
実施時期	2021 年度～2025 年度
継続見込	期間中に文化観光推進者と協議し、計画終了後も継続できる仕組みを見出す
アウトプット目標	演劇公演来場者数 50 人/回

必要資金 調達方法	23.4 百万円 （内訳：7.8 百万円（自己資金）、15.6 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

（事業番号１－⑧）

事業名	豊岡演劇祭事業
事業内容	豊岡演劇祭は、市が進める“深さをもった演劇のまちづくり”のリーディングプロジェクトであり「小さな世界都市-Local & Global City -」の実現のための強力な推進力の一つとなっている。本演劇祭はフリンジ型演劇祭であり、市内各地で演劇公演が開催されており、周遊観光を促している。また、閑散期である９月の開催を計画しており、地域の閑散期対策としても文化観光の可能性を示している。 【実施事項】 ・豊岡演劇祭での演劇公演
実施主体	豊岡演劇祭実行委員会
実施時期	2021 年度～2025 年度
継続見込	豊岡演劇祭実行委員会の自主財源により継続
アウトプット目標	目標②豊岡演劇祭来場者数の達成
必要資金 調達方法	91.5 百万円 内訳：43 百万円（自己資金）12.5 百万円（地方創生推進交付金（内閣府）） 36 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

8-1-2. 地域内を移動する国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の地域における文化観光に関する利便の増進に関する事業

（事業番号２－①）

事業名	路線バスロケーションシステム導入事業
事業内容	国内外から豊岡市を訪れ、城崎温泉に宿泊する観光旅客に対し、公共交通を活用した出石・神鍋高原・竹野浜・コウノトリの郷公園等の市内文化施設への回遊を促進する。情報提供による周遊意欲の喚起と利便性向上を目的として、市内を走行する全但バス・市内循環バス（コバス）・市営バス（イナカー）にバスロケーションシステムを導入し、バスの位置情報をリアルタイムで提供し、周遊観光の促進を図る。観光・交通拠点に観光情報と一元化して旅客の周遊意識を高めるデジタルサイネージを設置し、直感的にバスの利用を促す。情報提供内容は多言語対応(まずは英語)とユニバーサル対応を目指し、誰にとっても周遊しやすいサステナブルな環境を実現する。また、走行実績等のデータを元にダイヤを改善し、バスを便利に安心して利用できるようにする。 【実施事項】 ・バスロケーションシステム導入 ・デジタルサイネージ導入 ・バスダイヤ改善
実施主体	全但バス株式会社、豊岡市
実施時期	2021 年度～2023 年度

継続見込	システム導入により事業完了
アウトプット目標	バスロケーションシステムを１つ以上導入
必要資金調達方法	45.0 百万円（内訳：15 百万円（自己資金）、30 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

（事業番号２－②）

事業名	日本初の観劇 MaaS アプリ制作事業
事業内容	豊岡演劇祭を契機とした観劇予約決済受付、演劇祭パスポート購入者と単券チケット購入者の予約管理の一元化、演劇祭実行委員会事務局および各フリンジ団体によるチケット在庫管理・予約管理の一元化、電子チケット入場の実現、全但バス・コバス・イナカーにおける電子決済の実現、スケジュールや移動時間を踏まえた演目選択を可能にする最適 UI 開発を実現する芸術文化と観光を一体で取り扱い予約決済を一元化するモバイルアプリを制作することで、芸術文化に関心の高い観光旅客の周辺地域回遊を促進する。 さらに、デマンド交通システムを導入することで観光客の域内移動の利便性向上や、公共交通機関では行くことが難しい場所への二次アクセスの充実化を図る。 【実施事項】 ・アプリ開発・普及啓発 ・アプリ実装への実証実験実施 ・オンデマンド交通システムの実証実験実施
実施主体	豊岡演劇祭実行委員会、全但バス、西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部兵庫支社
実施時期	2022 年度～2025 年度
継続見込	豊岡演劇祭実行委員会の自主財源にて継続
アウトプット目標	MaaS アプリを１つ導入
必要資金調達方法	18 百万円（内訳：６百万円（自己資金）、12 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

（事業番号２－③）

事業名	インフォメーションセンター運営
事業内容	城崎温泉に英語対応可能スタッフが常駐するインフォメーションセンターを運営して旅行者の案内を行っている。英語対応可能なスタッフが常駐しており、外国人の方の案内も対応可能。また、バスの発着点でもあり、市内の周遊観光についての案内をし、有効な二次交通の手段を提案しており、旅行客の満足度向上に努めている。また、観光客へのアンケートも取得している。
実施主体	豊岡市
実施時期	2021 年度～2025 年度
継続見込	豊岡市の自主財源で継続
アウトプット目標	NPS アンケート 2,000 件/年以上回収

必要資金 調達方法	15 百万円 内訳：7.5 百万円（自己資金）7.5 百万円（地方創生推進交付金（内閣府））

（事業番号２－④）

事業名	文化観光施設等多言語化対応
事業内容	市内文化観光施設や豊岡演劇祭において、インバウンド旅行客が展示資料等への理解をより一層深められるように観光庁が示す「魅力的な多言語解説作成指針」に沿った多言語対応を図る。 パンフレットの多言語化、ホームページの多言語化を実施していく。対応言語は、日本語、英語に加え、仏語、繁体字を中心に、市のインバウンド戦略に沿って決めていく。また、演目への多言語化対応については、海外からのアーティスト招聘や翻訳文章つきの演目を公演する。また、モニターを通じた字幕表示、さらには、スマートグラスなどの技術向上(翻訳の質も含む)による翻訳文章と演劇を楽しめる技術が発展してくれば導入の検討を行う。 【実施事項】 ・各文化観光施設や豊岡演劇祭のパンフレットやホームページなど多言語化 ・公演演目の多言語化対応
実施主体	豊岡市、豊岡演劇祭実行委員会
実施時期	2022 年度～2025 年度
継続見込	整備により事業完了
アウトプット目標	文化観光拠点多言語化対応１ヶ所 豊岡演劇祭におけるパンフレットやホームページ多言語化
必要資金 調達方法	11.4 百万円 （内訳：3.8 百万円（自己資金）、7.6 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

（事業番号２－⑤）

事業名	演劇列車運行事業
事業内容	豊岡市を縦断する JR 西日本山陰本線において、演劇や地元事業者が提供する料理等を楽しめる演劇観光列車を運行することで、演劇や地域（食文化等）への理解度を高める機会を提供する。豊岡市の基幹的公共交通機関である JR 西日本と連携して、移動に対する付加価値を提供することで、豊岡市内のみならず、但馬地域内への回遊を促進する。 【実施事項】 ・演劇列車運行
実施主体	一般社団法人豊岡観光イノベーション、豊岡市、豊岡演劇祭実行委員会
実施時期	2021 年度～2025 年度
継続見込	期間中に文化観光推進者と協議し、計画終了後も継続できる仕組みを見出す
アウトプット目標	演劇観光列車を１本以上運行
必要資金 調達方法	10.2 百万円 （内訳：3.4 百万円（自己資金）、6.8 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

（事業番号２－⑥）

事業名	利便性向上による回遊促進事業
事業内容	豊岡市には、城崎国際アートセンターをはじめ、出石永楽館や江原河畔劇場、城崎文芸館等、広大な市域に文化施設が点在している。また、豊岡市には演劇の他にも多様な文化資源があるが、二次交通や情報コミュニケーションの課題から観光客の回遊につながっていない状況にある。 このため、豊岡に適した豊岡らしい二次交通のあり方と、観光客が必要とするときに必要な情報を提供できる体制を検討し、演劇祭開催期間のみならず、年間を通して豊岡を訪れる方々に、回遊を促進し楽しんでもらう仕組みづくりを行う。 合わせて、スマホアプリなどを活用して観光客の満足度向上やウィズコロナに対応する新たな旅行プランの提案を行う。 【実施事項】 ・多様な文化施設のわかりやすい案内表示 ・“深さをもった演劇のまちづくり”を紹介する市民ボランティア育成 ・システムを活用した新たな旅行プランの提案
実施主体	豊岡市、豊岡演劇祭実行委員会、西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部兵庫支社
実施時期	2022 年度～2025 年度
継続見込	期間中に文化観光推進者と協議し、計画終了後も継続できる仕組みを見出す
アウトプット目標	文化施設へのわかりやすい案内表示　５カ所/年 目標④：観光消費額単価の達成
必要資金調達方法	24 百万円（内訳：８ 百万円（自己資金）、16 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

8-1-3. 地域における文化観光拠点施設その他の文化資源保存活用施設と飲食店、販売施設、宿泊施設その他の国内外からの観光旅客の利便に供する施設との連携の促進に関する事業

（事業番号３－①）

事業名	夜間帯における新たな市場創出事業
事業内容	豊岡演劇祭開催時において夜公演観劇後に、来訪客、演劇祭関係者、地域住民など観劇体験を共有する場をまちなかに設ける。具体的には、広場にナイトマーケットを出現させるだけでなく、既存店舗（カフェ、バー、スナックなど）とも連携し町中に小さな交流の場を多数生み出す。そのことにより、兼ねてから外国人旅行客のニーズとしてある「地元との交流」の場を生み出し、対話を誘発することもできる。また、豊岡演劇祭を活用し、豊岡に不足しているナイトタイムエコノミーを活性化させ新たな市場として開拓することで、夜間の交通事業者の営業促進にもつなげていく。 【実施事項】 ・日高・豊岡地域でのナイトマーケット開催 ・豊岡・城崎地域での既存店舗による連携事業 ・城崎温泉での夜の屋外公演開催
実施主体	豊岡演劇祭実行委員会
実施時期	2021 年度～2025 年度
継続見込	豊岡演劇祭実行委員会の自主財源にて継続

アウトプット目標	ナイトマーケット１回/年開催
必要資金 調達方法	18.9 百万円 （内訳：6.3 百万円（自己資金）、12.6 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

（事業番号３－②）

事業名	飲食・宿泊事業所における名作文学リーディングによる高付加価値造成事業
事業内容	志賀直哉「城の崎にて」や、城崎国際アートセンターの存在によって、文学やアートのイメージがある城崎温泉において、飲食店や宿など各事業所と連携し、現在、城崎温泉に不足している温泉巡り後から就寝までの合間にナイトタイムエンターテイメントとして、志賀直哉など優れた過去名作の文学作品リーディングをセット販売し高付加価値な文化体験(旅行商品)を来訪客に提供する。 知的探究心や文化リテラシーが比較的高い富裕層をターゲットに想定。沖縄のホテルで琉球三味線が体験できるように、文学のまち城崎では文学作品の抜粋をリーディングし、簡単な作品解説もセットでつける。時間のない観光客に名作文学作品のエッセンスを短時間で体験してもらう。 2021 年は豊岡演劇祭にて実証実験を行い、今後は日常的に文学コンテンツを提供していく。(青年団主宰の平田オリザ氏との連携なども視野に入れる) 併せて、将来的なリーディング公演等を含む展開を視野に入れ、新たに付加価値を加えたインバウンド向けコンテンツを造成する。 【実施事項】 ・M-PAD と連携し、商品造成を行い、観光ＤＭＯにて販売していく ※M-PAD 「おいしくてあたらしい料理と演劇のたのしみかた」をコンセプトに掲げ、2011 年に三重県でスタートし、おいしいと評判の店で料理を楽しみながら、文学・古典作品を俳優の身体を通して楽しむプログラム ・インバウンド向けに小説等の英語版コンテンツ造成
実施主体	豊岡演劇祭実行委員会、一般社団法人豊岡観光イノベーション、特定非営利活動法人本と温泉
実施時期	2021 年度～2025 年度
継続見込	計画期間終了後は、旅行商品としての収入利益を増やすことで継続
アウトプット目標	旅行商品１つ以上造成 インバウンド向けコンテンツ１つ以上造成
必要資金 調達方法	16.2 百万円 （内訳：5.4 百万円（自己資金）、10.8 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

（事業番号３－③）

事業名	レストランバス運行事業
事業内容	豊岡市は面積が広く、バスで周遊観光を行うにも非常に時間がかかる。豊岡演劇祭は、フリンジ型の演劇祭であり、各地で公演が開催されるため、時間がかかっても移動をしないと観覧できない演目もたくさんある。そこで、移動自体を楽しめるコンテンツを造成する。移動中のバスの車内で地域の高級食材を材料とした料理が提供され

	るレストランバスを運行することで、地域(食文化や伝統文化)への理解度を高める機会を提供する。移動に対する付加価値を提供することで、回遊性を高めるとともに、地産地消を高め、地元農家の支援を行う。 【実施事項】 ・レストランバス（WILLER 社）の企画・運行
実施主体	豊岡市
実施時期	2021 年度～2023 年度
継続見込	豊岡演劇祭実行委員会の自主財源により継続
アウトプット目標	レストランバス１本以上運行
必要資金調達方法	8.4 百万円（内訳：2.8 百万円（自己資金)、5.6 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁)）

8-1-4. 国内外における地域の宣伝に関する事業

(事業番号４－①)

事業名	深さをもった演劇のまちづくりプロモーション事業
事業内容	“深さをもった演劇のまちづくり”の取組みの情報発信が不十分であるため、事業番号１-①でも記載した動画の作成以外にも、冊子の作成、ホームページ等のデジタルコンテンツを作成することにより、基本情報を発信していく。また、作成するコンテンツについては、アクセシビリティ対応を行い、多様な方が“深さをもった演劇のまちづくり”の取組みに共感し、豊岡市来訪のきっかけとなるようプロモーションを行う。 また、市民に対しても“深さをもった演劇のまちづくり”への理解と共感をえる取組みを進めることにより、まちづくりをさらに加速させる。 【実施事項】 ・ホームページの作成 ・冊子の作成 ・その他デジタルコンテンツ作成 ・“深さをもった演劇のまちづくり”訴求に向けたワークショップ実施
実施主体	豊岡市、一般社団法人豊岡アートアクション
実施時期	2022 年度～2025 年度
継続見込	豊岡市の自主財源にて継続
アウトプット目標	ホームページを１つ作成
必要資金調達方法	5.7 百万円 （内訳：1.9 百万円（自己資金)、3.8 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁)）

(事業番号４－②)

事業名	豊岡演劇祭プロモーション事業
事業内容	“深さをもった演劇のまちづくり”のリーディングプロジェクトである豊岡演劇祭での取組みを記録、発信していくことで、演劇という文化資源がまちづくりにもたら

	していること、また、その文化資源が新しい観光資源となっているという事象を日本だけでなく、世界へと発信していくことで、豊岡の価値を高めていく。また、WEB ページの多言語化(まずは英語)など情報発信の方法も強化していく。 【実施事項】 ・豊岡演劇祭の映像アーカイブ作成 ・豊岡演劇祭 WEB ページの多言語化
実施主体	豊岡演劇祭実行委員会
実施時期	2021 年度～2025 年度
継続見込	豊岡演劇祭実行委員会の自主財源にて継続
アウトプット目標	豊岡演劇祭の映像アーカイブ１つ作成
必要資金 調達方法	24.6 百万円 （内訳：8.2 百万円（自己資金)、16.4 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁)）

(事業番号４－③)

事業名	豊岡市外国人旅行者向けサイト「VisitKinosaki」事業
事業内容	全ページ英語で構成されているインバウンド向けサイト「VisitKinosaki」を運営し、豊岡市の観光情報を提供している。ターゲットは欧米豪で、ネイティブなスタッフとともに文化資源のストーリーの伝え方や体験プログラムの造成を行い、同サイト内で販売している。また宿泊予約も可能なサイトであり、体験×宿泊により延泊増加の推進を図っている。毎週データを分析し、常に PDCA を行い、有効な打ち手の検証を実施している。また、多言語化対応として、仏語、独語の翻訳を行い、より精度の高い情報発信に努めている。
実施主体	豊岡市、一般社団法人豊岡観光イノベーション
実施時期	2021 年度～2025 年度
継続見込	豊岡市の自主財源にて継続
アウトプット目標	WEB ページ閲覧のユニークユーザー数 230,000
必要資金 調達方法	15 百万円 （内訳：7.5 百万円（自己資金）7.5 百万円（地方創生推進交付金（内閣府)）

8-1-5. 1.～4.の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業

(事業番号５－①)

事業名	城崎国際アートセンターの受入体制整備事業
事業内容	城崎国際アートセンターが“深さをもった演劇のまちづくり”の発信拠点となるための拠点整備を行う。 “深さをもった演劇のまちづくり”の主要な文化拠点として、日本の今に続く演劇の歴史や、演劇ってなんだろ？それに対して、今はどういう流れで、どういうコンテンツが生まれるかなどの紹介動画を作成する(事業番号１－①)。 さらに、動画鑑賞設備が整うことで、滞在制作の施設である強みを活かし、作品を

	作るプロセスやアーティスト自身による作品への解説等の上映も想定している。 動画を視聴できる環境を含め、MICE やワーケーション受入体制整備を行い、“深さをもった演劇のまちづくり”が体験できるような環境を整える。さらには、滞在者がワークショップなどを通じて地域の人々に対して特別な体験を提供することで、地域の新しい魅力発信や地域活性化へつながっていく。 長期的な視点としては、新型コロナウイルスの影響で、チームビルディングとしてワークショップの需要が高まっており、そのコンテンツとして、“深さをもった演劇のまちづくり”を活用した企業研修や、ゼミ合宿などの MICE 受入れを視野に入れており、ワーケーション受入体制を整えることで、今後の MICE を受け入れる基盤ができることで新しい形での誘客受け入れを行う。 ※補足説明 ワーケーションを導入する要因の 1 つに、城崎は「まちが 1 つの旅館」というコンセプトでまちづくりを行っており、駅が玄関、道路が廊下、旅館が部屋、外湯がお風呂ととらえ、各旅館に宿泊者を留めるのではなく、街に出てもらい、楽しんでもらうことを念頭に置いている。そこへ「働く」というコンセプトを導入する。元々城崎には文人墨客を招き入れる文化があり、近年では城崎独自の本を販売する NPO の「本と温泉」をつくり、作家を招き、創作活動をしている。 【実施事項】 ・文化資源の発信拠点としての整備 ・Wi-Fi 整備 ・ワーケーション予約システム導入検討
実施主体	豊岡市
実施時期	2021 年度～2025 年度
継続見込	整備により事業完了
アウトプット目標	動画鑑賞設備１ヶ所設置
必要資金調達方法	4.5 百万円 （内訳：1.5 百万円（自己資金） ３百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

（事業番号５－②）

事業名	玄武洞などジオサイトにおける屋外文化体験による魅力強化事業
事業内容	【事業番号１－②と連携】 豊岡演劇祭においてジオサイトに登録されている文化資源を活用した演劇公演を行う。 現在も文化資源としてとても大きな魅力がある玄武洞があり、文化観光拠点である城崎国際アートセンターとも近い位置関係(自転車で 15 分程度)にあるが、個別の取組みに留まっており、有機的な連携ができていない。 周遊観光を促進するためにも、国内外から訪れる来園者の滞留時間が延びるような心地よい空間を創出することを目的に、玄武洞公演の整備工事を行い、さらなる文化資源の磨き上げを行う。また、豊岡演劇祭開催時には、玄武洞という壮大な舞台に相当しうる、世界を代表する劇団を招き公演をし、玄武洞の魅力と価値を国内外へ向けて発信する。

	また、玄武洞で成功例をつくり、竹野海岸、神鍋高原でも、地域の歴史や自然景観を活かしたサイトスペシフィックな舞台芸術作品を上演し、価値の再発見や国内外への発信を行う。
	【実施事項】 ・玄武洞の魅力発信へとつながる野外公演 ・ジオサイトを活用した野外公演 ・野外公演対応への照明設備(電気系統)整備 ・玄武洞公園整備後の情報発信
実施主体	豊岡市、豊岡演劇祭実行委員会
実施時期	2021 年度～2022 年度
継続見込	整備により事業完了
アウトプット目標	演劇公演舞台１ヶ所以上設置
必要資金調達方法	9.6 百万円 （内訳：3.2 百万円（自己資金)、6.4 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁)）

8-2. 特別の措置に関する事項

8-2-1. 必要とする特例措置の内容

事業番号・事業名	
必要とする特例の根拠	文化観光推進法第　　条（　　法の特例）
特例措置を受けようとする主体	
特例措置を受けようとする事業内容	
当該事業実施による文化観光推進に対する効果	

8-2-2. オブジェ等の設置に関する取組等

申請の名称	
申請の根拠法令・条項	
設置の目的	
設置期間	
設置場所	
オブジェ等の構造	
オブジェ等の工事実施の方法（※）	

	工事期間（※）		
	復旧方法（※）		
	関係協議先		

8-3. 必要な資金の額及び調達方法

	総事業費	事業番号	所要資金額	内訳
2021 年度	112.2 百万円	事業番号１－①	4.5 百万円	1.5 百万円（自己資金）　３百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－②	10.5 百万円	3.5 百万円（自己資金）　７百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－④	11.1 百万円	3.7 百万円（自己資金）　7.4 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－⑥	3.6 百万円	1.2 百万円（自己資金）　2.4 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－⑦	4.2 百万円	1.4 百万円（自己資金）　2.8 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－⑧	7.5 百万円	５百万円（自己資金）　2.5 百万円（地方創生推進交付金（内閣府））
		事業番号２－①	36 百万円	12 百万円（自己資金）　24 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号２－③	３百万円	1.5 百万円（自己資金）　1.5 百万円（地方創生推進交付金（内閣府））
		事業番号２－⑤	5.1 百万円	1.7 百万円（自己資金）　3.4 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号３－①	4.5 百万円	1.5 百万円（自己資金）　３百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号３－②	3.9 百万円	1.3 百万円（自己資金）　2.6 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号３－③	３百万円	１百万円（自己資金）　２百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号４－②	5.7 百万円	1.9 百万円（自己資金）　3.8 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号４－③	３百万円	1.5 百万円（自己資金）　1.5 百万円（地方創生推進交付金（内閣府））
		事業番号５－①	1.5 百万円	0.5 百万円（自己資金）　１百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号５－②	5.1 百万円	1.7 百万円（自己資金）　3.4 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））

2022 年度	118.2 百万円	事業番号１－①	2.1 百万円	0.7 百万円（自己資金）　1.4 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－②	９百万円	３百万円（自己資金）　６百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－③	３百万円	１百万円（自己資金）　２百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－④	11.1 百万円	3.7 百万円（自己資金）　7.4 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－⑤	３百万円	１百万円（自己資金）　２百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－⑥	12 百万円	４百万円（自己資金）　８百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－⑦	5.7 百万円	1.9 百万円（自己資金）　3.8 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－⑧	7.5 百万円	５百万円（自己資金）　2.5 百万円（地方創生推進交付金（内閣府））
		事業番号２－①	６百万円	２百万円（自己資金）　４百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号２－②	９百万円	３百万円（自己資金）　６百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号２－③	３百万円	1.5 百万円（自己資金）　1.5 百万円（地方創生推進交付金（内閣府））
		事業番号２－④	3.6 百万円	1.2 百万円（自己資金）　2.4 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号２－⑤	5.1 百万円	1.7 百万円（自己資金）　3.4 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号２－⑥	９百万円	３百万円（自己資金）　６百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号３－①	4.5 百万円	1.5 百万円（自己資金）　３百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号３－②	3.9 百万円	1.3 百万円（自己資金）　2.6 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号３－③	３百万円	１百万円（自己資金）　２百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号４－①	３百万円	１百万円（自己資金）　２百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号４－②	5.7 百万円	1.9 百万円（自己資金）　3.8 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号４－③	３百万円	1.5 百万円（自己資金）　1.5 百万円（地方創生推進交付金（内閣府））

		事業番号５－①	1.5 百万円	0.5 百万円（自己資金）　１百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号５－②	4.5 百万円	1.5 百万円（自己資金）　３百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
2023 年度	108.3 百万円	事業番号１－①	1.5 百万円	0.5 百万円（自己資金）　１百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－②	8.1 百万円	2.7 百万円（自己資金）　5.4 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－③	2.1 百万円	0.7 百万円（自己資金）　1.4 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－④	11.1 百万円	3.7 百万円（自己資金）　7.4 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－⑤	６百万円	２百万円（自己資金）　４百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－⑥	６百万円	２百万円（自己資金）　４百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－⑦	5.7 百万円	1.9 百万円（自己資金）　3.8 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－⑧	25.5 百万円	11 百万円（自己資金）　2.5 百万円（地方創生推進交付金（内閣府）） 12 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号２－①	３百万円	１百万円（自己資金）　２百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号２－②	4.5 百万円	1.5 百万円（自己資金）　３百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号２－③	３百万円	1.5 百万円（自己資金）　1.5 百万円（地方創生推進交付金（内閣府））
		事業番号２－④	3.6 百万円	1.2 百万円（自己資金）　2.4 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号２－⑥	６百万円	２百万円（自己資金）　４百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号３－①	4.5 百万円	1.5 百万円（自己資金）　３百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号３－②	3.9 百万円	1.3 百万円（自己資金）　2.6 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号３－③	2.4 百万円	0.8 百万円（自己資金）　1.6 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号４－①	1.2 百万円	0.4 百万円（自己資金）　0.8 百万円（文化観光推進事業補助金（文化

				庁))
		事業番号４－②	5.7 百万円	1.9 百万円（自己資金）　3.8 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁))
		事業番号４－③	３百万円	1.5 百万円（自己資金）　1.5 百万円（地方創生推進交付金（内閣府))
		事業番号５－①	1.5 百万円	0.5 百万円（自己資金）　１百万円（(文化観光推進事業補助金（文化庁))
2024 年度	89.4 百万円	事業番号１－①	1.5 百万円	0.5 百万円 (自己資金)　１百万円 (文化観光推進事業補助金 (文化庁))
		事業番号１－②	6.6 百万円	2.2 百万円（自己資金）　4.4 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁))
		事業番号１－③	1.5 百万円	0.5 百万円 (自己資金)　１百万円 (文化観光推進事業補助金 (文化庁))
		事業番号１－④	９百万円	３百万円（自己資金）　６百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁))
		事業番号１－⑤	６百万円	２百万円（自己資金）　４百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁))
		事業番号１－⑥	６百万円	２百万円（自己資金）　４百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁))
		事業番号１－⑦	4.5 百万円	1.5 百万円 (自己資金)　３百万円 (文化観光推進事業補助金 (文化庁))
		事業番号１－⑧	25.5 百万円	11 百万円（自己資金）　2.5 百万円（地方創生推進交付金（内閣府)) 12 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁))
		事業番号２－②	３百万円	１百万円（自己資金）　２百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁))
		事業番号２－③	３百万円	1.5 百万円（自己資金）　1.5 百万円（地方創生推進交付金（内閣府))
		事業番号２－④	2.4 百万円	0.8 百万円（自己資金）　1.6 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁))
		事業番号２－⑥	６百万円	２百万円（自己資金）　４百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁))
		事業番号３－①	３百万円	１百万円（自己資金）　２百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁))
		事業番号３－②	３百万円	１百万円（自己資金）　２百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁))
		事業番号４－①	0.9 百万円	0.3 百万円（自己資金）　0.6 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁))
		事業番号４－②	4.5 百万円	1.5 百万円 (自己資金)　３百万円 (文化観光推進事業補助金 (文化庁))
		事業番号４－③	３百万円	1.5 百万円（自己資金）　1.5 百万円（地方創生推進交付金（内閣府))

2025 年度	67.8 百万円	事業番号１－①	1.5 百万円	0.5 百万円（自己資金）　１百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－②	６百万円	２百万円（自己資金）　４百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－③	1.2 百万円	0.4 百万円（自己資金）　0.8 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－④	7.5 百万円	2.5 百万円（自己資金）　５百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－⑥	３百万円	１百万円（自己資金）　２百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－⑦	3.3 百万円	1.1 百万円（自己資金）　2.2 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号１－⑧	25.5 百万円	11 百万円（自己資金）　2.5 百万円（地方創生推進交付金（内閣府）） 12 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号２－②	1.5 百万円	0.5 百万円（自己資金）　１百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号２－③	３百万円	1.5 百万円（自己資金）　1.5 百万円（地方創生推進交付金（内閣府））
		事業番号２－④	1.8 百万円	0.6 百万円（自己資金）　1.2 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号２－⑥	３百万円	１百万円（自己資金）　２百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号３－①	2.4 百万円	0.8 百万円（自己資金）　1.6 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号３－②	1.5 百万円	0.5 百万円（自己資金）　１百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号４－①	0.6 百万円	0.2 百万円（自己資金）　0.4 百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号４－②	３百万円	１百万円（自己資金）　２百万円（文化観光推進事業補助金（文化庁））
		事業番号４－③	３百万円	1.5 百万円（自己資金）　1.5 百万円（地方創生推進交付金（内閣府））
合計	495.9 百万円			

※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、事業の規模・内容の見直しや自己資金による対応等について検討する。

９．計画期間

2021 年度から 2025 年度までの期間とする。